

第 1 回館山市議会定例会会議録

(第 2 号)



1 平成6年3月8日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	21番 神田 守隆
22番 福原 勤	23番 石井 昌治
26番 辻田 実	27番 横溝 功
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 1名

20番 生稲 陞

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 渡辺 富雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 三平 孝司
水道課長 谷貝 実	教育委員会 高橋 博夫
	教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 鈴木 哲
書記 四ノ宮 朗	書記 安田 仁一
書記 小山 真	書記 松浮 郁夏

# 1 議事日程（第2号）

平成6年3月8日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時00分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

## 行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の3月3日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

2番議員増田基彦君。御登壇願います。

（2番議員増田基彦君登壇）

◎2番（増田基彦君） おはようございます。私はさきに通告いたしました3点につきまして質問させていただきます。

1点目としまして、ガット・ウルグアイ・ラウンド合意後の市農政についてでございます。ガット・ウルグアイ・ラウンドは、昨年12月15日、ジュネーブで貿易交渉委員会を開き、最終合意文書を採択し、7年3カ月に及ぶ交渉の幕を閉じました。日本政府の提出した農産物の最終国別約束表には、米の部分開放、乳製品など輸入制限品目の関税化、さらに牛肉、オレンジ等 1

、400品目の関税化率引き下げなどが盛り込まれました。今まで農業従事者の高齢化、後継者難等多くの難問を抱えている上に、今後はさらに厳しい国際競争にさらされることになりました。そして、二千数百年続いた農業は壊滅的打撃を受けることになりました。地球の温暖化が言われております。日本を初め世界各地から異常気象が報告されております。もしも世界的な大凶作が来たらどうするのでしょうか、そのときは一体だれが助けてくれるのでしょうか、みんなで考えるときが来ました。現在農業は極めて厳しい状況に置かれております。今回の調整案の受け入れは、農業の将来、そして農業を基盤産業とする農村地域の経済にとりまして、今後さらに多くの困難と重大な影響を及ぼすことになると思います。

このような状況のもと、平成6年度の国の予算案が2月15日の閣議で決まりました。税収減の中で、国の一般歳出の中で、前年度比微増の緊縮型予算でありました。現政権初の予算編成であり、政治改革法案や総合経済対策等難問を抱え、年明け予算編成になるなど、厳しい状況下でありました。こうした中で、農林水産予算は総額 1.5%増という厳しい内容でした。農林水産予算は、新政策関連の経営基盤強化法、特定農山村法の施行後初めての予算編成であり、昨年の大冷害、ガット農業合意の受け入れ等、課題が山積でした。農水省が今後の国内対策のルールづくりと位置づけた94年度農水省予算は、95年度からの米市場の部分開放、小麦や乳製品等の関税化をにらみ、農家の一律保護ではなく、将来の日本農業を担う経営体の育成に重点を置いております。ウルグアイ・ラウンド合意を受けた新規の国内対策は、2月から始まった首相の諮問機関である農政審議会の議論を経て、秋から本格化するとの見通しです。10ヘクタール以上の大規模農家を育てる担い手育成基盤事業を大幅に増額し、また経営合理化を目指す農家のための経営改善支援センターの設立等、生産性の高い農家を育てる対策への配分を重視しております。

また、県の当初予算案は歳出の 5.6%を農業予算が占めております。およそ 798億円、前年比0.04%増であります。新しいところでは、国の米の輸入部分自由化という事態を迎え、大規模化して競争力のある稲作を促進するための大区画稲作パイロット事業ということで、八千代市に30ヘクタール、旭

市に24ヘクタールのモデル水田を整備し、高性能機械を導入し、試験栽培をするとのこと。また、環境に優しい農業の推進ということで、化学肥料や農薬をなるべく使わない農産物の生産をしていくことなどです。ガット合意後の県内対策は、平成5年12月に自由化対策プロジェクトチームをつくり、その答申を農政審議会の議論を経て対策を講じていくとのこと。

当市におきましては、ガット農業合意が12月15日でしたので、予算編成時期と重なり、平成6年度予算には対策は全くありません。平成7年度の予算を、そして対策を期待するものです。市民およそ5万4,000人のうち約2割が農業人口であり、2万世帯のうち2,500世帯が農家であります。農家の存亡が館山市経済にとりまして今後多くの問題と重大な影響を及ぼすことが考えられます。幸いにして当市の市長さんが農村のお生まれで、農村のお育ちでございます。農業に対する最高の理解者であると信じております。市長さんの温かい希望の持てる御答弁をお願いいたします。

2点目でございます。総合保養地域整備法に基づく民間リゾート開発計画のその後についてでございます。民間リゾート開発には大変厳しい風が吹いております。平成不況もことし3月で35カ月目に入りました。景気回復への期待は大きいですが、第2次石油ショック後の不況、36カ月上回って、戦後最長となる気配が濃厚だと言われております。ことしの日本経済を経済成長率、失業率、貿易収支の各データで見ますと、94年度予算編成の越年で、94年度実質経済成長率など、政府経済見通しの発表もことしにずれ込みました。官製の予測では2%台に落ちつくとの見方が専らですが、民間調査機関や金融機関が昨年末までに発表した94年度の実質国内総生産成長率は平均で0.5%程度、辛うじて93年度のマイナス成長の見通しから抜け出すものの、94年度も企業収益の悪化が景気回復の足を引っ張り続けるとの予想が多く、低空飛行が続きそうです。

完全失業率は昨年11月に2.8%まで上昇しましたが、企業の雇用調整はこれからが本番だと言われております。製造業だけで110万人いるという企業内失業者が次第に失業者として顕在化してくるなどの懸念が広がっております。戦後の失業率のピークは円高不況下の3.1%、87年5月でございます。

94年度はこの水準に迫ると言われております。一方、長らくふえ続けた貿易収支の黒字も、昨年11月にはJカーブ効果が消え、ようやく黒字縮小局面に入ったとの見方が有力です。日本経済は依然として低空飛行が続くようです。

去る1月17日、総務庁が、総合保養地域整備法の対象地域の中に、地方自治体の基本構想が作成された当初から事業主体が未定だったり、あるいは現在整備実現の見通しが立っていないものがあると、国土庁、自治省など関係省庁に地方自治体の基本構想見直しを指導するよう勧告しました。そして、整備実現の立たない大きな原因は、経済情勢が変化して、民間事業者の投資が後退したことがリゾート開発の低迷を招いた大きな要因と指摘されております。地域の振興策として期待の大きかったリゾート開発も暗礁に乗り上げた形です。いまだ着工のめどがついていない地区があるなど、地域振興に大きなおくれが出ていると総務庁は指摘しております。

海洋性リゾートタウンのまちづくりを推進している我が館山市にとりまして、平成8年度には東京湾横断道路、東関東自動車道館山線の開通が予定され、同じく上水道の通水も始まり、館山市は大きく変貌しようとしております。館山市にとりまして、リゾート開発は不可欠でございます。しかしながら、先ほど申し上げたように、経済情勢の変化によりまして、計画が大きく後退しているようにも見受けられます。高度成長期の60年代半ばに新産業都市工業整備特別地域による大規模開発ブームがありました。指定された地域は鉄鋼、石油化学等の重厚長大産業を地域振興の柱に据えましたが、これは第1次石油危機とともに構造不況業種に転落してしまいました。新産業工業地域にせよ、リゾート開発にせよ、一斉に同一の内容、手法で始まり、しばむときも一斉というのでは困ります。館山市における民間リゾート開発も、うたかたのように消えてしまったのでしょうか。我々にとっても夏の夜の夢だったのか。今後の見通しをお伺いいたします。

3点目といたしまして、市は救急救命士制度導入を広域消防に働きかけてはでございます。ある新聞に、救急車の中において救急救命士の適切な措置により、とうとい人命が救われたという記事が掲載されておりました。当市におきましても、市長さん、医師会長さんを初め多くの皆様の御尽力によりま

して、救急医療センターの建設計画が進められております。当市の現在の医療の状況、そしてこれからの高齢化社会、社会生活の多様化等を考えれば、病院前救護の体制の確立が急務であると考えられます。まずは救急救命士制度の導入を働きかけていただきたいものです。

救急救命士とは、現在我が国では、消防署の救急隊員は人工呼吸や包帯による止血など、いわば手作業による救急措置しか認められておりませんが、アメリカでは特別の教育を受けた隊員が — パラメディックといいまして、気道に入った異物を取り除いたり、呼吸を確保するための器具の使用や、電氣的除細動器を使って心臓本来の拍動を取り戻すために軽い電気ショックを与える措置、あるいは心臓の動きを強める点滴注射などを行う、この3つを救急3点セットといいまして、先進国では救急医療の基本となっているそうです。そして、医療行為にかなり踏み込んだ措置を行うことができるそうです。

1990年、平成2年4月、東京消防庁の救急業務懇話会は、当面日本でもこのアメリカ流のパラメディック制度を目指し、救急隊員の救急措置範囲の拡大を求める答申を行いました。92年、平成4年春から新たな国家資格として救急救命士制度がスタートすることになりました。これまでの救急車の役割は患者を病院に運ぶだけだったが、これでプレホスピタルケア — 病院前救護の体制が確立するのであります。一方、医師でなければ医業をしてはならぬという医師法の原則から、医師が救急車に同乗して救急現場に出動するドクターカーもありますが、千葉県では船橋市が前向きに取り組んでいるとのこと。

心の通う健康福祉都市を市政の柱としている市長さんをお願いします。まずは病院まで安心して行ける救急救命士制度早期導入をお願いできるかお伺いいたします。

以上3点質問させていただきました。御答弁によりましては再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの増田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1のガット・ウルグアイ・ラウンドの合意後の館山市農政についての御質問でございます。国は、昨年の12月のガット・ウルグアイ・ラウンド農業交渉の合意を受けまして、これに対応した国内対策と農産物の価格政策の見直しなど、中長期的な農政の展開方向について論議をスタートさせまして、さきの新政策を促進するとともに、21世紀に向けました農業構造を実現するための長期ビジョンの策定を図るとしております。また、千葉県におきましてはこのほど、農畜産物貿易自由化に対応いたしまして、農林業振興の基本的方策をまとめ、千葉県21世紀農業展望構想の実現に向けまして、千葉県型の農業、農村の創造を図るとしております。したがって、館山市といたしましては、これらの国、県の諸施策を踏まえながら、館山市の特性を生かした効率的かつ安定的な農業経営の確保、育成に努めてまいりたいと考えているところでございます。

次に、大きな第2の総合保養地域整備法に基づきます民間リゾート開発計画についての御質問でございますが、南たてやまマリパーク計画と太陽海岸平砂浦計画につきましては、開発事業者において都市計画法に基づく開発許可申請の準備が進められているところでございます。また、館山レインボータウン計画につきましては、現在のところ開発事業者は未定でございます。引き続き計画実現のために開発事業者を支援してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、救急救命士制度についての御質問でございますが、救急救命士の配置につきましては、安房郡市広域市町村圏事務組合に検討してもらうよう働きかけてまいりたいと考えております。なお、救急業務の実施基準が改正されまして、救急隊員の応急処置の範囲が拡大されましたので、現在千葉県消防学校へ入校し、教育訓練を受けているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） では、再質問させていただきます。

二千数百年続いた農業が大変な危機に立たされているわけでございますが、

国が、先ほども通告質問の中で申し上げましたように、首相の諮問機関でございます農政審議会、そして県が自由化対策プロジェクトチーム、そのような機関をつくりまして対策を講じているわけでございますが、館山市としてはこれからどのような方向で進まれるのか、御質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

国、それから県ではそれぞれの組織、機関でいろいろと対策を検討していく、こういうことでございますが、館山市といたしましては、今後出てまいります国、県の対策を踏まえながら、館山市農政審議会の場で御審議をいただき、政策に反映をしてまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） 今農政審議会というふうなお話を伺ったわけでございますが、御答弁をいただいたわけでございますが、私も農政審議会の中に加えさせていただきまして、2度ほど会議に出席させていただいたわけですが、そんなことを言うと大変失礼なんです、各界をそれぞれ代表される立派な経験のある方なんです、私が若い方から2番目の状態なんです。そのようなわけで、もっと実際農業を今担っている、そういう若い人の意見をある程度聞く場も設けていただけたらなと思うわけでございます。私も職場によってはもう定年退職を迎える年ですので、ただ、農業問題の高齢化がいろいろ言われていますが、私も部落に帰りますと、まだお茶くみをやっているような状態で、まだ若いのが全然いないというのが実情でございます。そんなようなわけで、これから農業を一生懸命担っていく若い人たちも館山市にはいっぱい、大勢いると思いますので、そういう方の意見を聞かれる機会もつくっていただければ、そのように考えております。

それと、各地でいろいろな意向調査等が行われております。新聞、テレビ等でちょくちょく放映されるわけでございますが、農業者の中の60%ぐらいの人たちがやる気をなくしているというふうな結果が出ているわけでございますが、そのような事態を市はどのように受けとめていられるか、感想と言

って言葉が適切でないかも知れませんが、そういう点をちょっとお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 御質問のとおり、私どもも新聞、テレビ等でそういうアンケートの結果というものは見ておるわけでございまして、農業というのは人が生きていくためには必要不可欠ないわゆる基礎産業、私ども学校でもそのように教育を受けてきたわけで、まことにそのとおりというふうに考えておるわけでございます。大変厳しいアンケートの結果だというふうに受けとめております。今後とも展望の持てる農業、それから農家経営の安定というふうな面につきまして必要な施策を講じてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） 新政策では10ヘクタール以上の大規模農家を育てるということで、大規模化して競争力をつける、国際的な競争力をつけるということで伺っているわけなんです。館山市の農家の経営規模からいまして、館山市の農家の経営規模は必ずしも大きいとは言えないわけです。それで、即対応というのなかなか困難な面も多いかな、そのように考えるわけでございます。先ほど市長さん、また部長さんからのお話の中で、館山市に合った、即応した農業の施策をというふうな答弁もございましたが、今地方分権も言われているわけでございます。国、県の施策を待たずに、館山市独自の――私若いときに読んだ本の中に「僕の先に道がなく、僕の後に道ができ」というような、そんなような本を読んだことがございますが、そういう折、館山市というのはすごい農政を展開しているんだな、国や県がそれを見習っていい、そういうようなあれでこれから施策を進めて、農政を展開していただければな、そのように考えるわけでございます。

参考までに、館山市の農家の現況といいますか、今の経営規模、また大きな農家ではどのくらいの経営規模で稲作の場合経営されているか。国は10ヘクタールというふうなあれも出ていますので、そういう面でちょっと御説明

いただければと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 農家の経営規模、これを数字的に申し上げますと、水稻の作付農家数でございますが、これは本年の2月調査いたしました農業統計調査の結果でございますが、2,174戸となっております。それで、経営耕地面積のうち田んぼが1,208ヘクタールということでございますので、1戸当たりいたしますと平均55アール、そういう非常に小さい面積になります。それから、経営規模別の農家数で申し上げますと、これはちょっと田畑一緒になりますが、いわゆる2ヘクタール以上、これは調査の中での一番上限の規模の格づけでございますが、これが55戸でございます。総体で2,200ぐらいある中の55戸ということでございますので、2%強というような数字になろうと思います。そういう意味から申し上げますと、先ほど御質問のございましたように、規模拡大というようなことを考えました場合、集積できるかどうかという点は大変疑問に思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） どうもいろいろありがとうございました。国の新政策は大規模化して競争力のある農業ということでございますが、館山市では即対応というのは無理だなというふうな感じがするわけでございます。今後じっくり検討していただきまして、すばらしい館山農政を展開していただきたい、そのように考えているわけです。よろしくお願いいたします。

続きまして、第2点目でございます。平成5年3月末現在で全国で40道府県の基本構想の承認を受けた地域がございます。その指定されました、構想の承認を受けました40道府県、また千葉県館山市以外の開発の状況は現在どうなっているんですか、それを教えていただきたいんです。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 御質問ございましたように、現在40道府県で基本構想が承認をされているわけでございますが、その開発の状況ということでございますが、県に問い合わせをいたしましたんですが、そういうデータ

の把握はないというようなことでございますが、御参考までに、これは昨年の5月でございますが、共同通信社で調査をいたしましたものがございます。この時点では全国で35道府県が基本構想の承認を受けておったわけでございますが、そのうちバブルの崩壊というような中で事業の縮小とか中止とか、そういうようなものがどの程度あるのかという調査をしたものがございますが、35道府県のうち31道府県の77施設に影響が出ている。内訳で申し上げますと、施設の建設が中止になったケースが11件、計画規模の縮小が10件、着工のおくれ56件、こういうふうな数字になっておりまして、さらにそのうち24の道と県で自然保護などのいわゆる立ち木トラストなどによる反対運動が出ている。総じてスムーズな開発というふうな姿ではない、そういう——これは民間の調査結果でございます。御参考までに、私どもの方で把握しておりますので、お話し申し上げました。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） どうもありがとうございました。

総務庁が平成4年にリゾート法の施行状況や関連施設の状況を調査しましたというふうな記事が載っておりましたが、調査は基本構想の承認を受けた40道府県——これは平成5年3月末日現在でございますが、そのうち和歌山、宮崎など16道府県、これを調査の対象にしたということで新聞等に載っていますが、千葉県はその対象に入っていたのですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 県に問い合わせをいたしましたところ、千葉県は調査対象にはなっておらない、そういう回答でございました。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） その調査したという原因といいますか、千葉県が外れていたということは、千葉県はよくできているからということで外したんか、そういうことでちょっとわからない点もございますが、先へ行きます。

最近リゾート開発の見直しということでよく新聞紙上等に報道されており

ますが、見直しの原因といいますのはどんなあれがあるのかなというふうに考えるわけでございますが、まず民間企業によるキャピタルゲイン追求型の開発方式がいけないのか、あるいは事業主体が未定であったり、また着工のめどがないというふうないわゆるずさんな構想による見直しなのか、またはそのほかに見直しがあるのか、ちょっと検討がつきかねるんで、よく言われる見直しについてちょっと御説明願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 今回の総務庁の勧告にあります見直しということにつきましては、まだ詳細な資料は私ども入手しておらないわけでございまして、3月の17日ですか、県の方からそういう説明があるというふうに聞いております。ただ、今御質問のございました見直しというようなことにつきましては、やはり計画そのものの見直し、これには、昨年ですか、研究会の——これは国の方の研究会でございしますが、大規模リゾートだけではなくて、小規模なものとか、それから国民が低廉な料金で利用できる施設とか、そういうような研究会の報告等もなされておるわけでございます。そういう総体的なものも含めて、ケースによっては用地取得がスムーズにいかないとか、先ほどもちょっと申し上げました地元のいわゆる自然保護に絡みますところの反対運動があるとか、そういうようなものも含めて計画を現実に即したものに変わっていく、いろんな意味がその見直しという中にはあろうか、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） では、3点目に移りたいと思います。

救急救命士制度導入につきまして、ただいま市長さんから積極的に働きかけるとの——市長さんは積極的にという言葉はお使いになりませんでした、私は積極的に働きかけていただける、そのように解釈いたしました。そういうことで、前向きな御答弁を賜り、まことにありがとうございました。

市長さんからそのような御答弁をいただいたんで、再質問の必要はないかなと思われませんが、一応現在の——千葉県下33消防本部があるそうでござい

ますが、その中で救急救命士制度を導入されている本部のこと、また県下の情勢、また安房消防における受け入れの条件、また受験資格、いろいろなクリアしなければならない多くの問題もあろうと思いますが、簡単に御説明いただければと思います。よろしくお願いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） まず、1点目の県下各市の救急救命士の現状でございますけれども、県下で現在7市で配置をされております。千葉市が7名、それから船橋以下6市で1名から2名という配置でございます。合計16名の配置がされているというふうに伺っております。

それから、安房郡市の消防本部につきましては、先ほど市長から答弁しましたけれども、救急救命士の導入の条件になります実は研修を受けているわけでございます。研修の中での標準課程といいまして、250時間以上という、そういった長期の研修でございますけれども、3名の隊員が今受講中ということでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） 私は救急救命士制度導入は大変すばらしい制度だと思います。とうとい人命を救うため、一日も早い救急救命士制度の導入をお願いいたしまして、質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で2番議員増田基彦君の質問を終わります。

次、1番議員秋山光章君。御登壇願います。

（1番議員秋山光章君登壇）

◎1番（秋山光章君） 私はさきに通告をいたしました2点につきまして質問をさせていただきます。

その前に、一言のごあいさつを申し上げます。我が拓世会のメンバーであり、よき指導者でありました故流山源次郎さんが他界をされまして、はや1年たとうとしております。すばらしい先輩でした。御冥福をお祈りいたします。

さて、庄司館山市長におかれましては、バブルの崩壊で最悪の景気の中に

もかわらず、前年対比一般会計で 102.3%、特別会計 111.8%と、他市町村にないすばらしい伸び率の予算を組んでいただきました。これも、たくさんの仕事をしようとするため、役所職員一丸となって経費を節約しながらつくり上げた庄司カラーの予算と大変喜んでいる次第でございます。

さて、そこでお伺いをいたします。来年度、平成 6 年度予算の前年対比 231%の伸びを見えています館山市水道事業第 3 次拡張事業について伺います。私たちが館野、九重の方々と話をしますと、二言目には水道の話が出てまいります。慢性的な水不足で、夏になると館山市の水道課の職員はまくらを高くして寝ていられないとの話をよく聞いたことがあります。去年は異常なほどの長雨、そして冷夏に見舞われ、水道は心配はなかったけれども、農業、商業、観光、その他あらゆる面に大打撃、大変でした。おかげで不景気の中に拍車をかけられ、そのつめあとは当分続くと思われます。やはり夏は夏らしく暑くなければいけないわけでございます。そうしますと、また水が足りなくなるわけでございます。

館山市はもともと地下水や表流水などの水源に乏しく、水道事業に大きな障害となっていました。そんな事情から、利根川の水を利用する県の広域水道の計画ができて、南房総広域水道企業団が設立をされ、館山を含む安房、夷隅の水不足が解消される明るい展望が開かれてまいりました。外房の山間道路を走りますと、あらゆるところで工事中でございます。すごく大きな水道管の布設が行われております。あの管で館山まで水が運ばれてくるんだなと、大変ありがたく、そしてうれしく思う次第でございます。また、今年度になり、当館野、九重地区の未給水地内にも、国道、県道、市道にも水道本管の布設工事が始まり、現実が実感として見えてまいりました。市当局、また関係各位の長年にわたる努力が実を結びつつあることについて、地域住民は心より感謝の念と大きな期待を持っている次第でございます。

上水道、下水道の普及率は文化生活のバロメーターでもあるとされておりますが、水量がなく、水質が悪く、水に大変苦勞をしているこのたびの館山市水道事業第 3 次拡張の地域、館野、九重では、井戸水を保健所に持参をしますと、飲用不適でございます。ある人は、会社の帰りにポリ缶に水道水を

もらって帰る。また、ある組合では、交代で飲み水を出動時に持ってきております。また、スーパーにおいて、1.5リットルですか、1リットルですか、そのぐらいのボトルで水を買って飲んでいる人もいます。また、ある飲食店では、保健所の水質検査でオーケーをもらうために100万円以上の施設をつくり、砂や砂利や活性炭でろ過するわけでございますけれども、水質が悪いためにすぐに詰まってしまう、月に1度ぐらいの割で船橋あたりから業者が来て、水質維持のためのメンテナンスをしてもらう、そんなお店もあります。また、水に色がついていまして、白い洗濯物は黄ばんでまいります。鉄分の色ならば除鉄器でとれるわけでございますけれども、その鉄分じゃない色が含まれておりまして、色素定着剤という薬でとらなくてはなりません。また、多量に水を必要とするために、80メートル以上掘削をいたしますと塩水が出てくる始末でございます。そんな水で今まで我慢してきました。

しかし、このたび未給水地の解消のために第3次拡張事業が行われるわけでございますけれども、受益件数、館野、九重で1,184世帯あるわけでございますが、平成6年2月末までの水道加入申込件数がたったの343件なんでございます。何と4分の1強の申し込みしかないのです。加入率の少ない理由はほかにもあると思いますが、水道布設に大変高額な費用がかかります。水道事業は国、市、館山市水道と3分の1ずつの負担で本管工事を行うわけですが、国道、県道、市道、延長で27キロ今回やるわけですが、そして12億円かかるそうでございます。しかし、国、市の補助金が出ない家庭までの総延長がまだ32キロもある。今回布設される以上のキロ数がまだ国の補助金が出ない、引けない、そういう場所があるわけでございます。

国道、県道は1メートル6万円から7万円かかるそうです。市道は1メートル約2万円かかります。本管から宅内への第1バルブまで10万円から15万円の費用もかかり、またバルブからメートルを通して蛇口まで、水が出るようになるまでは大変なお金がかかります。ある家では、市道で本管の最後から235メートル離れた家が田舎ですのであります。そこまで引くのに437万1,000円かかると言われた家もあるやに聞いております。また、国道、県道の配水管の反対側の家は70万円も高い工事費がかかる見積もりも聞きました。

本管より第1バルブまで既に工事の完了した地域では、10万円でできた家もありますが、50万円以上の支払いをした家もあります。こんなに高い水道管の布設費ではどうしようもありません。同じ市民が同じ水を飲むために、また行政のやる仕事でこんなやり方はおかしくありませんか。未給水地の全家庭 1,184世帯が安全なおいしい水が欲しいのです。布設費の多少で地域でのいろいろな活動に弊害が起きては大変でございます。

ちなみに、九重地区は公民館活動、コミュニティ活動、そして各地区でのいろいろな活動ぶりは館山市でも一、二の実績を誇っているところであります。地域住民が納得のいく施策について十分なる配慮をしなければならないと思います、質問をいたしました。

質問の第1点目でございます。南房総広域水道企業団の事業と館山市の出野尾配水場の進捗状況を教えてください。

2番目でございます。平成6年の2月に行われました九重地区での第2回目の説明会の内容と反応を教えてくださいたいと思います。

続きまして、第3問目です。館山市の八幡、湊、高井が含まれておりまして給水をしました三芳水道企業団とシステムが違うわけでございますけれども、どうしてこれが違うか教えてくださいたいと思います。

それでは、次の質問に入ります。寒さも一雨ごとに暖くなり、よい日が続いておりますが、NHK等のメディアの紹介によりまして、暖かさ、そしてフラワー・アンド・ストロベリーと申しましょうか、花といちごを求めてたくさんの観光客が館山に来ております。館山いちご狩りセンターの話ですと、3月5日の土曜日には 3,251人、また日曜日の6日ですが、この日には観光バスが40台、そして乗用車が 1,500台、人数といたしまして 5,033人の入園者があったそうでございます。また、いちご狩りに寄らずに、館山のすばらしい財産でありますあの雄大な富士山を映す鏡ヶ浦からの海岸線や花を見て帰られた方もたくさんいると思います。また、1月30日に行われました館山市の一大イベントであります第14回館山若潮マラソン大会には 5,400人と大変な選手の参加でありました。また、随行者も大勢いらっしゃいました。たくさんの人が集まる館山市でございます。

しかし、大半の人がバスを含めての車で来られます。楽しい思いもつかの間、帰りに岩井、鋸南町あたりで交通渋滞に巻き込まれます。東京湾フェリー待ちの車で1車線通れず、お客様のいら立ちが募り、館山のよき思い出が全部消えて、道が悪くて二度と行きたくない等の悪評になってしまう南房総とを考えます。

そこでお伺いいたします。私たち九重地区の公民館活動で、去年6月ですか、館山市の大型バスを借りまして、そして県議のお取り計らいによりまして、千葉県の船に乗せてもらいまして、東京湾横断道路と東関東自動車道の視察に行きました。係の方からは順調に進んでいるとの説明を聞いてまいりましたが、その後の進捗状況はいかがでしょうか、教えていただきたいと思っています。

また、金谷までの鋸山トンネルは、道路トンネルとしては千葉県で一番長いトンネルだそうなのですが、貫通はしておりました。随分工事の方も進んでおりましたが、その後の進捗状況を教えていただきたいと思っています。

そして、そのトンネルが完成をし、金谷からの進入路もできておりますので、それができますと、岩井勝山インターというところがあるそうですけれども、そこからその鋸山トンネルを通りまして、金谷まで抜けさせていただけたらば、道路の交通渋滞が大変緩和できると思います。そういうわけで、この一部供用はいかがでしょうか、お伺いをいたします。

また、首都圏から130キロメートルと近く、高速道路ができれば1時間少しで到着するまち、そこが我がまち館山市です。そこは三十有余キロにわたりますすばらしい海岸線を持っています。素朴さと自然が十分に満喫できます。しかし、海で遊ぶ人はいいけれども、観光客は自然だけでは満足できない人もいます。何か遊ぶものでも、見るものでもない、楽に日帰りのコースになってしまいます。行政、また民間活力を使つての観光客の誘致策はあるか、また受け皿はどのように考えているか、お聞かせをいただきたいと思っています。

続きまして、館山市の基幹産業であります農業は大事な位置を占めているわけなのですが、その中のいちごと花がちょうど時期的、また先ほども

お話をしましたけれども、テレビ、雑誌、新聞等のメディアで紹介され、すばらしいブームとなり、観光と結びつきました。それが観光農業という名前ができた由来だそうでございますが、館山市のいちごと花での集客は、昨年、平成5年度は18万942人も来たそうでございます。大変なお客様の数であります。それならば、いちごが終わった5月からいちごの始まる1月ですか、それまでの間にお客様の呼べる農作物で、観光として成り立つものを考え、つくり、一年じゅう農業でも観光客が呼べる館山市を考えていく必要があるかと思います。館山市は温暖で、海もすばらしく、海でも遊べて、魚もおいしく、自然もたくさんあり、そしてゴルフ場等のレジャー施設もあり、観光農業もあったら、高速道路が開通したときには首都圏のお客様はたくさん来られるし、一過型と申しまししょうか、その日に帰る日帰りのコースじゃなく、長期滞在型のリゾート地になれると思います。館山市としてこれからの観光農業をどのように考えていますか、教えていただきたいと思います。

御答弁によりまして再質問をさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの秋山議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の小さな第1点目、南房総広域水道企業団、この施設の進捗状況と館山市の出野尾配水場の進捗状況でございますが、今年度末までに南房総広域水道企業団の浄水施設につきましては計画事業費の55.2%、送水施設のうち送水管布設につきましては105.9キロメートル、66.2%の進捗率になります。また、出野尾配水場建設は、平成5年度は主として配水地を、平成6年度に電気計装設備等を予定しておりまして、平成5年度末においては61.9%の進捗率になります。

次に、小さな第2点目、九重地区説明会の御質問でございますが、第3次拡張事業の進捗状況及び給水装置工事費等を説明中でございます。今までの質問の内容といたしましては、おのおのの工事費、消火栓設置位置等の問題でございます。また、加入者の経費が多額になるので、経費負担軽減の要望

もございました。

次に、小さな第3点目、三芳水道企業団との相違についての御質問でございますが、三芳水道企業団の事業は、企業団発足当初におけるいわゆる創設時の事業でございます。今回の館山市水道第3次拡張事業は、既給水区域の既存施設改良や給水区域の拡大を図る拡張事業である点が相違の主な理由でございます。

いずれにいたしましても、この未給水地域における拡張事業は地域住民の永年の願いでございまして、全戸が水道加入できるよう、工事費負担の軽減について陳情を受けておりますので、今後検討してまいりたいと考えております。

次に、水と並んで大きな問題の交通アクセスに関します問題、その第1点目、東京湾横断道路、東関東自動車道路の進捗状況についての御質問でございますが、東京湾横断道路につきましては、平成8年度内供用開始を目指しまして、人工島及び橋梁部等の工事を実施中で、工事の進捗はおおむね40%と伺っております。また、東関東自動車道館山線につきましては、千葉―木更津間において、平成6年度内供用開始を目指しまして、工事の進捗はおおむね70%とのことでありまして、木更津―富津間におきましては、昨年11月に建設省より日本道路公団に対しまして施行命令が発せられまして、現在実施計画の認可に向けて手続中とのことでございます。一方、南の富津―館山間におきましては、高規格127号富津館山道路として事業中でございます。第11次道路整備5カ年計画内の供用開始を目指し、橋梁10橋、トンネル10カ所が工事完了あるいは工事中と伺っております。

なお、御質問の鋸南―富津間のあの鋸山トンネル前後の一部供用については、私も同じような意見でございますが、過日建設省にお願いしましたところ、トンネル内は完璧に完成しておるが、取り付け道路の問題でまだ責任が持てる段階でないのというお話をお伺いしましたが、この要望については関係市町村挙げてお願いしていきたいと考えております。

次に、小さな第2点目、道路開通に合わせての観光客の誘致と受け皿についての御質問でございますが、多様化する観光客の志向をとらえながら、地

域経済の波及などを総合的に考慮した観光案内サービスが重要であると考えております。館山市といたしましても、引き続き通年型の観光を目指しまして、自然環境資源、レクリエーション資源、観光施設、各種イベント等を生かした観光振興を図ってまいります。

次に、小さな第3点目、観光農業についての御質問でございますが、これまで館山市は館山の地域性を生かしたいちご園や花摘み園等の施設整備を促進してまいりました。平成6年度もいちご生産施設整備を計画しております、今後とも館山市のよき特性を生かした地域特産物づくりの推進を図り、観光農業の振興に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 今の市長のお答えをよく伺いまして、納得できるんですけれども、二、三またお伺いをしたいと思います。

新聞等によりますと、南房総広域ではなくて、県のお話だと思いますけれども、大多喜ダムがまだ手がつけられない状態だということで聞いておりますが、私ども聞いたところによりますと、長柄のダムから大多喜のダムへ入り、大多喜のダムから浄水場を通して、そして飲める水を館山まで送ってくるという話を聞いておりましたが、大多喜ダムは白紙の状態と聞いておりますけれども、浄水場から飲める水が——平成8年の8月でしょうか、通水時期は平成8年の8月となっておりましたけれども、それまでに間に合うのでしょうか、それをお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 大多喜ダムの着工のおくれ、それと通水時期の関係の御質問でございますが、確かに大多喜ダムの着工が、まだ現地での着工はされていないで、当初の計画よりおくられているようでございます。しかしながら、長柄ダムから大多喜ダムへ南房総導水路を設置しているわけで、その導水路の——大多喜ダムを予定している近く、その付近から直接導水管をつなぎまして、大多喜浄水場が送水を受けて、それを大多喜浄水場で浄化して、14の事業体の配水地へ送る計画になっておりますので、平成8年7月

の通水予定には支障ない、このように南房総の方から伺っている次第でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） わかりました。それでは、ぜひその平成8年の8月までにはおいしい水が飲めるようにお願いをしたいと思います。

続きまして、平成6年から平成8年度の館山市根幹事業実施計画の中に、館山市水道第3次拡張工事の中の浄水場改良工事と浄水場用地取得とありますけれども、これは今の大多喜ダムとは関係なく、山本のことでしょうか。そしてまた、今回大多喜からたくさんの水が南房総導水路に向かうわけでございますけれども、この山本としましたら、山本の浄水場をつくる必要があるのかどうか、お伺いをしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 浄水場の改良についてでございますが、館山市の第3次拡張事業の中におきましては、未給水地の拡張を初めといたしまして、各浄水場の改良等も予定されております。それで、山本浄水場の改良の必要性についてでございますが、山本浄水場から平成4年度実績でも年間140万立方メートルの配水を行っておりまして、これは館山市の年間総配水量の約30%を占める重要な山本の水源でございます。しかしながら、山本浄水場は年数もたちまして老朽化しており、また水圧の調整のためにポンプ圧送等に切りかえる必要が出てきまして、そういう改良を行いまして、この水源を今後とも有効に活用していきたい、このように考えておるところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） わかりました。30%の水があそこから今給水されていることを伺いまして、そんなに水が出るのかなと感じた次第でございますけれども、それでは次に移りたいと思います。

それこそ2月の寒い中を館山市の水道課の方々に、九重地区でもう一回説

明会をやらしてもらえないかということで、仕事が終わった中、7時から9時半ごろまで皆さんといろんな話をして、各地区におかれまして説明会をしていただきましたことをこの場をかりて御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

2年前の夏にそれこそ未給水地の館野、九重に水道管が入るんだということで説明を受けまして、その後、本管が館野から九重地区にどんどん入っていきまして、地元住民としては、水道管が来ちゃったけれども、どうなるのかな、その後の話は何も聞いてないよということがありまして、今回の説明会になったわけでございますけれども、やはり私も考えたとおり、金額的なものが随分あったな、そのように聞いておりますけれども、あと——今市長さんにもなるべく安くやってくれるようなお話がありましたので、配慮していただける話がありましたので、その中でちょっとお伺いをしたいんですが、消火栓の設置なんです、やはり地元としてもいろいろなところに——用水池ですか、結構離れたところに用水池がありまして、今の国、市の補助ですか、その入る配管の位置じゃなくて、それからよっぽど遠くに用水池のあるところがあります。そして、いざ有事の後に——ないのが一番いいんですが、もし火災があったときに、そこへ補水をしなくてはいけないわけですが、今まで水路をとめたりしまして、その水がたまるのを待って補水をしたり、ひとりで出てくる水もありましたけれども、そんな格好でやっていたんですが、いかがでしょう。消火栓は用水池の近くまで持ってきてもらえるものでしょうか。また、そのほかに消火栓は何百メートルに1本というような格好で規定があるやに聞いておりますけれども、教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 今地元説明会を町内会ごとにやっておりますので、まだ途中なんでございますが、かなり消火栓の位置等につきまして各地域で関心が深いところでございまして、地域ごとにはその位置等を御説明しているところでございまして、今度の拡張事業で、拡張区域内だけで消火栓を83基予定しているところでございます。その位置等につきましては担当部

署と協議しながら決めているわけですが、国県道等は主として 200メートル間隔、それから配水管の口径の細いところにつきましては、住宅密集地とか、あるいは今御意見いただきましたとおり、防火水槽の近く等へ補水のために、このように配慮しながら設置をしていますし、また今後もそのように予定しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） それでは、ぜひ近くまで引いていただきたいなと思います。そして、きのうですか、船形地区でも火事がありまして、2軒のお宅が燃えたそうで、大変だったなと思っておりますけれども、ぜひ消火活動にも支障のないように、少しでも水の方、配慮をよろしくをお願いをしたいと思います。

続きまして、第3点目の三芳水道との違いでございますけれども、先ほど来私も話をしておりますけれども、館野、九重地区で 1,184軒の家が今回受益軒数と申しましょうか、水道が来なかったために入れなかったという家があるわけでございます。しかし、昭和43年から44年にかけて三芳水道企業団発足のときに、それこそこの機会に皆さん入ってくださいということで、入った軒数が 2,000軒だそうでございます。2,000軒の方がそのときには——創設時ということだと思いますけれども、加入金が1万円、そして工事費が1万円——そのときの1万円ですから、金額的には大きいものだと思いますけれども、そういうことで 2,000軒のお宅が三芳水道の加入者になったわけでございます。今回の 2,000軒と 1,184軒ではちょっと差はあるかもわかりませんが、今まで本当に水がなくて困って、何とかならないのかなということでやっと来た水でございます。そういうわけで、うちは水があるから要らないんだよということで拒んで入っていなかった未給水地と違いまして、ぜひできたら三芳と同じような格好でやっていただければ私は一番ありがたいと思います。今7万 7,000円でございます、加入金が。当時が1万円としますと 7.7倍でございますので、できれば 7.7倍の工事費で蛇口1本まで引けたらありがたいなと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 三芳水道との関連でございますが、市長が先ほど答弁申し上げましたとおり、三芳水道の創設時と今度の拡張事業は一般的に違いがございまして、三芳水道でも現在は館山市の考え方と大きな差がない方法で以後の加入については行っているわけでございます。

また、加入の金額のお話がございましたが、先ほど市長が答弁しましたとおり、確かに1戸 400万以上とか、そういう多額な金額につきましては加入に困難性があるということは認識しておるところでございますので、今後検討させていただきたい、こんなふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 実はここに、2月のこれは房日新聞だったかな、あるんですけども、鋸南町で190戸のうちに上水道が入ったわけでございます。それも鋸東地区といまして、随分山の、市井原からの先の山の方だということでございますけれども、そこには、先ほどもちょっと話をしましたけれども、本管から家の中に引くバルブがあるんですけども、メーターの手前の第1バルブというものがあるらしいんですけども、そのバルブまで全戸ただで引いた、そういう話もあるんです。今さら館山市がこんなに悩んでいるのに大変いい町もあるんだなと思って、私も新聞の切り抜きをここにとっておいたんですけども、無理かもわかりませんからこれ以上はいいとしまして、あと、これは朝夷水道だとか——館山市ももとは簡易水道でやってこられました。それと、今回九十九里でも、3カ所の水道企業体がそれぞれ全部プールで、この事業は幾らかかるんだから、じゃあ何軒あって幾らだよということで、近いも遠いも全部初めからプールで計算しよう。館山市の簡易水道もそうだったと思います。そういう格好で各地区が引いたところがあります。何で今回館山市は一番初めからそういうプールだとか、そういった皆さんが安心して同じ水を同じ人が、同じ市民が同じ水を飲むために何か易しい引き方の方法を講じなかったのか、教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 一律の金額というようなお話でございますが、先ほど申し上げましたが、今地元説明会も行っている途中でございますが、家が本管から近いあるいは遠い、これでも費用が同じことが公平かどうかにつきましてはいろいろな考え方がございまして、地元の中でもそうしてほしいという意見もかなりあると同時に、それは差があるのが当然だというような御意見の方もございまして、甚だどちらがいいのかという判断は難しいわけでございます。館山市といたしましては、第2次拡張事業のときもこのような方式をとっているわけでございますが、地元で、その地域、一定の地域の中でプール計算をしてというようなことがあれば、それはまたそれで結構だというふうに考えております。朝夷あるいは鋸南の話が出ましたが、各事業体それぞれの事情に沿いまして行っているところでございまして、御了解をお願いしたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） はい、わかりました。

水道管を今回も引いているわけでございますけれども、国道を200メートルぐらい走るうちに、配水管が道路横断をして、舗装を切ってでこぼこになっている。200メートルぐらいのうちに5本も6本もあるんです。道路がすごく走りづらくて、また1本切るのに、道路の反対側についたうちは70万円もお金が余計かかる。そのほかに家の中に、宅内に引くのにまた10万ぐらいかかるかもわかりませんが、国道の7メートル幾つを掘るだけで70万もかかる。ちょうど左に入って、左の人はいいかもわかりませんが、ちょうど真ん前に住んでいる人は70万も——何でおれがそんなに払わなきゃいけないんだ、じゃ道の真ん中に水道管引けばいいじゃないか、そういうような人も出てきます。だから、これは勝手かもわかりませんが、住んだ位置が悪かった、うちを建てた位置が悪かったのかもわかりませんが、それでやっぱりお金の差がこんなにあったんじゃないかなということを私はつくづく感じまして、また道路もこんなにがたがたになっちゃっているのかな。私は市内そういうプールでもしやるとすれば、1本引いて、反対に

も何かうまい格好でいければ、1本で70万、あとは民家でも通りながらやれば安くできるんじゃないかなと思いましたけれども、なるべくそういう点で、いろいろな人がいますんで、それこそきょうの新聞で、言葉は悪いかもわかりませんが、貧乏人は外米を食えとか何とかと書いてありましたけれども、何かそんなのがありましたけれども、お金が払えない人は水道が飲めないのか、そういうことじゃなくして、皆さんが同じ水を同じような格好で飲んでいきたいと思いますので、よろしく御配慮のほどお願いをしたいと思います。

続きまして、交通の方に入らせていただきたいと思います。今市長さんのお話で、岩井勝山インターから金谷までですか、陳情をなさっているということをお伺いしまして、大変私もありがたく、心強く思った次第でございます。ぜひこれを強く言って、何とかあそこの——もう貫通もしていますし、あれが通るだけで館山市のイメージがうんと変わると思いますので、陳情の方、私でよかったら私も行きますので、陳情をどんどんやっていきたいと思っていますので、よろしく願います。

続きまして、第2点目の観光客の誘致受け皿についてでございますけれども、今回館山は、九州の宮崎、そして富山と館山と、日本じゅうで3カ所だけのビーチ利用促進モデル地区ということで指定を受けました。そして、私も宮崎まで視察に行きましたけれども、宮崎はその前のリゾートでいろいろな——シーガイアとか、すばらしい建物が建ってありましたけれども、館山といたしまして、このビーチ利用のモデル地区としての進捗状況はいかなものでしょうか、教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 2月の17日に全員協議会の中で皆さん方に基本構想並びに基本計画の図の案等をお示したところでございますけれども、それらを受けて、3月の3日に第2回の委員会が開かれまして、その中でおおむねその方向で進んでおります。ただ、しかしながら、現実にはいろいろな問題点があるわけでございまして、例えば藻場の影響とか、あるいは突堤の長さがあるかどうかとか、いろいろな問題を今委員会を開いて検討いた

しました。今後それらを受けてさらに審議を重ねていく、こういうのが現状でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） わかりました。

私ども宮崎に行ったんですが、まだ宮崎市としてはこのことについて、ビーチ利用の促進モデル地区については何も動いていないんだ。そうしますと、それを考えますと、館山はあれだけの絵ができていまして、すばらしい構想だな、私の目の黒いうちに何とかなるかなというような感じもしたわけですが、どこへ行っても漁業権とかいろいろな問題があると思いますが、どうぞ漁業者と共存共栄で、すばらしい海を利用させていただきまして、すばらしいビーチ利用を考えていただきたいと思います。

そして、次に観光農業について、これは要望をさせていただきたいと思いますが、実は昨年、館山市農協の館野支所ですか、館山いちご狩りセンターの前の進入路、あそこが大変狭くて、交通渋滞が大変あったわけですが、昨年度予算をいただきまして、工事費の3分の1、115万7,000円ですか、いただきまして、すばらしい道路ができまして、きのう、おとついあたりのあれだけの——観光バス40台ですか、そして乗用車1,500台等の入園者があったわけですが、その割にはスムーズに進入、出入りができまして、大変喜んでいる次第でございます。

いちご狩りでこれだけお客さんが来ちゃいますと、日曜日の最後に来た人になりますと、ちょっといちごの方が青いいちごになっちゃうななんていうことも聞いておりましたけれども、なるべく農業者、農業をやる方をふやしてといいますか、なかなか高齢化とかいろんなものでふえない現状かも知れませんが、お客さんがあれだけ来れば、やはりもうかる商売といいますか、それだけの生計は立てられる商売だと思いますので、またいいものはみんながやるとしますし、そういう格好で少しでもふやしてもらって、たくさんのお客さんに来てもらえるように——その中で私1つ、いちごが足りないわけです、生のいちごも。そして、三芳だとか鴨川から買って、それを売ったりしているわけですが、あそこにはいちごようかんと

か、そういう加工品もあるんですが、生産者は静岡県なんです。これをぜひ、いちごに限らず館山で何かつくりまして、館山の商品をあそこで売れたらもっといいんじゃないかな。館山のためにもなる。また、農業面だけでなく、水産業のそういうものも — いちご狩りに来ると、大体花といちごを買って帰っちゃうお客さんがたくさんですので、ぜひああいう場でいろいろなものを、お客さんに房州館山のものを買っていってもらうのが一番かなと思っています。

あと、私はお土産を持って帰るのに、ある人からいちごを — 日本人はお土産を買って帰るのが好きな人種だそうでございますけれども、いちごを近所、親戚にくれると大変なお金になっちゃうんだ、1個 500円ぐらいのものでないとなかなかみんなに買って帰れないよというようなお話もあそこで聞いていましたけれども、そういうわけで、なるべくそのぐらいの金額で — 私ちょっと考えまして、薬草ですか、農業関係でいきますと薬草とか食用花とか、そういうものを鉢で安く売れたら売れるんじゃないかなと思いますし、農家の副業等で結構なものがお土産としてできるかと思います。

そういうわけで、館山市農協さん等でいろいろ勉強会などをしまして、たまたま今度の農協の新組合長の石井さんと、そして専務は、農業の営農については大変よく知っている村田さんという専務が普及所にいらっしやまして、農業のことについては本当によく知っている人だそうですので、ぜひ農協さんと行政一緒になりまして、すばらしい観光農業の支えになっていただきたいことを要望いたしまして、質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で1番議員秋山光章君の質問を終わります。

次、7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 私は、さきに通告をいたしました老人保健福祉計画の関連事業の中から5点についての御質問を申し上げてまいります。

館山市老人保健福祉計画ができ上がりまして、いよいよ平成11年度を目標にこの4月から計画の実施年度ということになるわけなんです、高齢化率が上昇中の館山市にとりましては、どういう姿勢で臨んでいくのが計画の

中に織り込まれていくものと思われました。計画の概要を拝見いたしました  
が、私は他市数カ所の老人保健福祉計画を参考に拝見をする機会がございま  
した。人口の違いのための数値は別といたしまして、ほとんど似たような内  
容でありました。県の指導のもとに行われたものであります以上当然なこと  
でしょうが、独自性のあるものという当初の考えは何だったんだろうと考え  
させられたものです。しかし、11年度までの間に恐らく多様化する要望に見  
直しを迫られる機会も出てくるのではないかと考えているところです。

そういった中でつくられた計画の中から、第1点目の質問といたしまして、  
デイケアセンターについて御質問いたします。3月1日に開始をされました  
ので、当日お邪魔をしましてまいりました。当日は館山市を対象とした利用者  
の方が約10名ほどいらっしゃいまして、入浴の真っ最中でありました。建物の  
周りは、狭いながらもお年寄りが喜びそうな花が川沿いに植え込んであつた  
り、浴室の窓の外には木や庭石などがありまして、周りの環境にも十分気を  
使っていると思えるものでございました。建物の中は思ったより広いスペー  
スで、床暖房や、一部畳の部分があつたり、お年寄りに親切的配慮がされて  
いることがよくわかりました。センサーつきのサンルーフなどで明るいつく  
りになっているので、一日をゆったりと過ごすには申し分のないものだと思  
心をいたしてきたところです。この施設についてはできたばかりですので、  
行政側から住民に対しこれから折に触れ知っていただくことになると思いま  
すので、私からの宣伝はこの辺で失礼をさせていただきます。

質問に移ります。3月1日からの開始でまだ日が浅いわけですが、始めて  
みての職員の方や利用者の方の感想はいかがでしたか、お聞かせください。  
私どもでもこのデイサービスを利用させていただいておりますが、本人にと  
りましてはどういうものなのかわからないので、不安を持っての参加のよう  
でした。また、ほかの対象者の方はどう思って参加をされるのか気になって  
いたところ、知人から、介護者と家族は利用させてあげたいのだけれども、  
本人がどうしても行くのは嫌だと言っているの、今回は申し込みを見合わ  
せているということを聞かされました。以前に高齢者ニーズ調査の折にも申  
し上げたと思いますが、本人や介護者の意識をどう改善をしていくのかがデ

イサービス事業、またほかの事業に限らずネックになるのではないかと  
思っております。始まったばかりの事業ですが、今後多くの対象者に利用して  
いただくにはどういった努力をされていくおつもりなのか、お伺いをいたします。

次に、2点目の住宅改造の助成事業についてでございますが、かねがねこ  
の事業を始めるようお願いをしまいましたが、まだ県内でもこの事業を  
行っている市は少ないと聞いております。そんな中で、館山市がこの事業を  
始めようとしていることにつきましては、率直に評価をしているところでご  
ざいます。たびたび東京江戸川区の例がいろいろな議会で論議され、私もか  
つて何回か質問をした経緯がございました。制度的には江戸川区のような全  
額補助というわけにはなかなかいかない状況にありますが、私の目指すもの  
はもちろん全額補助にあるということは御承知のとおりでございますが、館  
山市がこの事業を始めようとしていることにつきましては、他市町村の動向  
を無視参考にしていらっしゃると思います。県内他市、近隣市町村の状況は  
いかがだったでしょうか、お伺いをいたします。また、助成額が上限30万円  
まで、負担率2分の1ということで予算に組み込まれておりますが、助成限  
度額の割り出しの根拠をお聞かせいただきたいと思います。

次に、3点目でございますが、館山市には福祉カーの貸付制度がございま  
すが、かつて利用状況を伺った経緯がございました折には、まだ広く市民に  
対して周知されておりました。当時の利用目的は病院への送迎などが  
主なものだったように記憶をしておりますが、その後この福祉カーはどのよ  
うに活用をされているのでしょうか、利用状況と利用目的をお聞かせいた  
だきたいと思っております。館山市にある福祉カーを私もかつて利用させてい  
ただきたいと思って拝見をいたしました。利用する側から、運転を自分でしなけ  
ればならないことや、リフト操作についての使いにくさ、こういったことを指  
摘をしたつもりでございます。使いにくい車なら、ほかの車で何とかしてし  
まおうとか、利用してみようと思ったが、無理だということになっているの  
ではないでしょうか。福祉計画の中にも利用促進に向けた要旨、項目が入っ  
ておりました。今後どのようにしていこうとしているのかの意味でもお伺い  
をいたします。

次に、第4点目の質問でございます。医療体制の充実について伺います。毎回の様にこの問題は質問者が出ていることは御承知のとおりでございます。市長も我々議員も、多くの市民、近隣市町村の方が待ち望んでいるか御承知のはずでございます。これまでの経緯につきましては、市長から議会の質問に対して答弁をいただいておりますが、いま一つ形としてはなっていない現状ではないかと思っております。市民サイドからも一体いつになったら明るい話が聞けるんですかと聞かれることが多くなっている現在でございます。老人保健福祉計画の中でも医療サービスの整備についての施策を挙げられておりますが、庄司市長は市民に対してそろそろ具体的な答えを出すべきではないかと思うのですが、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

最後に、5点目の質問をいたします。総合検診や各種がん検診の充実についてでございます。安房郡市の検診受診率は県内でも高く評価をされているとお聞きをしております。高度医療施設などが無い館山市と近隣町村では、健康管理については十分気をつけて過ごさなければならないわけです。受診率が高いのも当然の結果だと思うわけです。県の保健事業計画ですと、11年度の検診目標値が胃がん、子宮がん、乳がん、大腸がんの検診率30%、肺がん検診率が40%としておりますが、今館山市で行われている検診について伺いますが、検診項目をお示し願いたいと思います。また、他市町村との検診項目の違いがございませうでしょうか。また、他市町村との検診率の比較はいかがでしょうか、お伺いをいたします。

老人保健福祉計画は、保健と医療、福祉サービスを幅広い分野でつくり上げていかなければならないわけです。目標年度に向けて新たな組織をつくっていくようでございますが、点検作業を十分にさせていただきながら進めていってほしいとお願いをしながら、今回の質問といたします。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、老人保健福祉計画にまつわります問題の第1点目、デイサービスセンター開所についての御質問でございますが、昨日開所式を行いまして、利用者からは大変喜ばれております。涙を流して喜んでいる方もいらっしゃるということでございます。昨日の報告で1日平均8人強ということでございます。未利用者の利用促進につきましては、これは家族間の話し合いが最も重要と考えております。しかしながら、保健指導及び施設見学等を通じて利用対象者の理解を深め、利用の促進を図ってまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、住宅改造助成事業についての御質問でございますが、県内市の状況につきましては、市川市と浦安市の2市が実施しております、他市は実施しておりません。安房郡内の市町村におきましては、現在実施しているところはございません。館山が最初でございます。助成金額の根拠につきましては、身体障害者を対象とする千葉県住宅改善事業、この基準額を参考にしております。

次に、小さな第3点目、福祉カーの利用状況についての御質問でございますが、平成5年度の稼働状況につきましては、2月末現在で利用件数8件、利用延べ日数20日、利用目的は病院への移送が7件、社会参加としての旅行が1件でございます。

次に、小さな第4点目、医療体制の充実の見通し、これに関する御質問でございますが、救急基幹センターとして安房医師会病院の整備充実を図るため、安房医師会を中心として、安房地域保健医療協議会及び安房郡市地域医療協議会におきまして検討が進められております。そして、安房医師会より病院用地として市有地——現在の東市民運動場借用の要望書の提出がございました。館山市といたしましては、これに積極的に協力する旨回答してございます。

次に、小さな第5点目、総合検診、各種がん検診の内容の充実についての御質問でございますが、総合検診、各種がん検診の内容の違いにつきましては、統一内容で安房医師会病院に委託しておりますので、違いはございません。次に、検診率の比較でございますが、安房管内の市町村は県内で最も高

い地域で、千葉県平均より15%ほど高い、こういう状況にございます。項目等の細部は部長より答弁いたさせます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 総合検診の項目の内容でございますけれども、基本健康診査で幾つかの細かい項目があるわけでございますけれども、その中で幾つか取り上げてみますと、問診、身体測定、これはもう当然でございますけれども、血圧測定、検尿、循環器系統の検査、肝臓機能の検査、貧血検査、こういった細かい検査項目があるわけでございます。そのほかに循環器検診、胃検査、胸部検診、婦人科検診、乳がん検診、こういった項目も加えて行っております。ただ、そのほかに大腸がん検診——これはほとんど同じような内容でそれぞれ市町村は検査しておりますけれども、この大腸がん検診だけは実施されていない市町村が多いわけでございます。これが館山市の特徴ということでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 再質問は午後からとし、午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前11時44分 休憩

午後 1時01分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数24名、休憩前に引き続き会議を開きます。

鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） それでは、再質問の方に移らせていただきます。

デイサービスのことなんですけれども、始めたばかりなんですから、現状ではどうやって軌道に乗せていくかということが一番問題じゃないかというふうに思うんですけれども、このデイケアの利用の希望者、調査をなさっていると思いますが、現在何人ぐらい望んでいるか把握していらっしゃいますでしょうか。

また、利用する回数、例えば週に何回利用するのか。館山市だけじゃない

わけですから、いろんな市町村入っているわけですから、その中でどの程度の割合で利用をするようになるのか、お示しをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 利用したいという希望者は、現時点では23名ということで申請を受けております。当初対象者の調査、133人の対象者を調査したんですけれども、希望しますよというまず返事をいただいたのが53名、そして最終的には申請を受けている人数は、先ほど申し上げたとおり、現在の時点では23名でございます。

それから、利用回数はどうかということでございますけれども、定員1日15名ということで利用を考えておりますけれども、3月の期間につきましては、関係市町村との調整の中で、試行的にやってみようということから、当面は、この3月は多くて月2回ということで考えております。軌道に乗りましてからは、回数をまたさらに検討してまいりたいという考えでおります。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） ということは、大体3月いっぱい調整をしてみるということで、4月から軌道に乗せていこうということなんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） そのように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） はい、わかりました。

始めた日に私も行ったものですから、練習はなさったとは聞いていましたけれども、おふろの水がちょっと少なかったりとか、若干トラブルがあったようですけれども、あとはそつがなくこなしていたようで、ケアに対しても本当に優しいケアをしていただいていたなというふうに思っております。

この事業を見ていまして、こういうことができるのかどうなのか私はわかりませんのでお聞きをしていきたいんですが、このデイの中で、例えばうちから出られないお年寄りの方々が一番身の回りのことで不自由していること

の1つには、散髪と歯科治療の問題があるんです。この中で、デイの中でそれに対応してやっていけるのかどうなのかをお聞きをしたいと思うんですが。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 散髪サービスとか、あるいは歯科医療、治療というお話でございますけれども、オープンしたばかりで、はっきり言いまして、現在は考えておりません。御意見として承っておきたいと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） まだ本当にオープンしたばかりで、考えられないという気持ちもわかりますが、将来的なこととしてお考えをいただきたいというふうに思っております。介護者の負担を少しでも軽くしていこうということ、また本人の幅広い視野を広げていこうということも含まれていると思います。この事業の趣旨にあると思っております。今後ぜひこの問題については考えていただきたいということで、ぜひ要望をしておきたいというふうに思います。

あと、利用促進の努力なんですけど、先ほどの市長さんの方の御答弁ですと、家庭の中でできれば対応していただきたいということがありましたけれども、確かに本人が嫌だと言うのに行かせるわけにはいきませんので、その辺のことというのは特に人権問題にもなりかねないわけですから、非常に大変なことには違いないんですが、一応保健婦さんとか、例えば民生委員の方、担当の機関の方がいらっしゃいますので、そういう方々にお力をおかしながら、こういう人を一人でもなくしていけるように、多くの方に利用していただけるように、今後また御努力をしていってほしいというふうをお願いをしておきます。

つけ加えますと、私どもの家庭でも、実は決まりましてから行くまでの間、行くつい二、三日前まで本人は嫌がっておりました。それこそ家族総動員、親戚を含めて話し合いまして、やっと本人が納得したという状況の中で参加をしました。それで、参加をしてみてどうだったか本人に聞きましたところ、おふろが怖かった。というのは、いつも自分のうちで何とか介助しながら入

れていますものですから、現場を見ておりませんので、非常に不安が強かったんだというふうに思っております。ですから、こういう不安をなくすというのは、参加することによって徐々に解消されていくんじゃないかな。だから、デイというのは1日ですけれども、例えば1時間単位、2時間単位でなれさせていくというようなことも考えていっていただきたいというふうに思っておりますので、今後よろしく願いをいたします。

次に、2点目の住宅改造の助成事業のことなんですけれども、今現在県内でも市川市と浦安市が行っておりまして、千葉市がこの7月から始めるというふうに聞いております。それで、大体その金額的なものも、市川は40万、浦安は50万、千葉市は70万というふうに聞いております。それで、ここの市の議員さんたちにお聞きをしたんですけれども、やっぱり値段的なものの根拠がいま一つはっきりしないというふうに思うんです。今からまだまだ福祉計画の中でやっていくところがどんどんこれからふえてくるわけなんですけれども、それだけに他市町村ではこの館山市も早くからやるということにつきましては注目をしているというふうなことになるわけです。今からやろうとしている市町村にとりましては、この館山市が本当にお手本になるのかどうなのか。私は片一方で評価しながら、片一方では非常に疑問な部分もあるということを指摘しておきたいと思いますが、館山市が積極的に在宅ケアに力を入れていくんだという姿勢のあらわれだということでは、本当にこれは多大な評価をしていいと思うんです。本当に大きな評価をしていいと思うんですが、先ほどの御答弁の中では県の住宅改善事業の基準額を参考にしたというふうにお聞きをしたと思うんですが、それだけではなくて、例えば金額を決めるについては、大工さんであるとか理学療法士の方であるとか、そういう方の意見をお聞きをしたのかどうなのか、お聞かせください。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） その住宅改造につきまして、大工とか、あるいは理学療法士等、そういった人たちの意見をお聞きしたのかということもございますけれども、これから申請が出されて、そしてその助成をするという過程の中で、何らかの方法で指導したいという気持ちを持っております。ど

んな形で具体的にどうなんだということでは今の時点では考えておりませんが、これからそういったなるべくすばらしい住環境で過ごしていただくということから、何らかの形で指導してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） これからの事業ということで、それこそいろんな面が、進むにつれていろんな面が出てくるわけですから、それはぜひ考えていてもらいたいんですが、改造の対象のもの — 例えば玄関とか浴室、トイレ、手すりなんでしょうけれども、この改造の対象のものというのは具体的に何がありますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 改造の具体的な内容でございますけれども、先ほど議員さんがおっしゃいました浴室、便所等も当然入ります。それから台所、それから居室、玄関、そういった内容の改造部分、それに対しての助成をしようということでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 障害を持ってしまった方が本当に生活するのに支障のないような状況にしていこうという趣旨なんでしょうけれども、スロープであるとか玄関を設置するとか、本当に改造に対しては大金がかかるんです。私も独自にちょっと調査してみたんですが、滑りどめの床材につきましても、普通の一般家庭で使っている床材は大体1平米 1,000円ぐらいからあるそうなんですけれども、ノンスリップということになると、1平米 3,000円ぐらいになってしまう、3倍ぐらいしてしまうということなんです。かねがね言っておりますように、手すりつきの浴槽についてはかなりの高額、20万ぐらいするというものが普通でした。数が非常に少ない状況でした。例えば、障害者の方が入るのに、やっぱりトイレ、玄関などの入り口なんかはドアを少し広めにします。そうすると、規格では合いませんので、特注になってしま

うと、またこれも高くなる。手すりなんかにつきましても、本当に手を添えるだけの簡単な手すり程度でしたらば、店頭販売しているものでも構わないんですけれども、やっぱりその手すりを頼りにしなければならない箇所、例えばトイレであるとか浴室の中であるとか、そこによりかかって動かなきゃならないというような箇所については、そういうものでは少しやわなので使えないということで、専用のやはりしっかりした手すり、パイプ類が使われるというふうになると、本当にこれは万単位になってくるんです。そういうことで、こういうことを考えますと、何でこの30万という額が——こだわるわけじゃないんですけれども、こだわっているのか、気になるところなんです。

私どももこの改造の助成については、前からこの事業が欲しいということはずっとお願いしていたわけで、やっとできた。やっとという言い方はあれだけども、何とか今回やってみようということのできたわけですから、その点については本当にありがたいなというふうに思っておるんですが、ちなみに、私どもでは改造しませんで、新築をしましたけれども、その折にも大工さんと相談しながら、どういう部分についての取り組みをしたかといいますと、一部でございしますが、取り外しのできるスロープ、これは玄関ないし裏玄関、1間半の長さでつけました。埋め込みレール、トイレ、洗面所の床材はノンスリップ、トイレ、浴槽内、洗面所の手すり、浴槽、浴槽の入り口のスロープ、トイレ、洗面所入り口、玄関ドアの大型化、普通規格サイズではない大型のドア、細かいことを挙げれば切りがないわけなんですけれども、これだけでも大工さんの方からは施工費用が約2割から3割程度高くなっているというふうに聞いております。正直申し上げて、大工さんがこういう仕事をするにつきましても、御存じのように障害者の方はたとえ2ミリ、3ミリの段差ができましても非常に不都合が出てくるわけです。そういうことに気を使いながら大工さんが仕事をするについては、本当にこの30万というお金は苦労料にもならないという厳しい意見もあったということをここで言っておきたいと思います。

今後この金額についてはチェックしながら、この金額を上げていこうとい

う気持ちはあるというふうに先ほどの御答弁で理解をしてよろしいんですね。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 今回のこの事業につきましては単独事業ということで創設をしたわけでございまして、まずこの助成額の30万ということでこれから当面は助成していこう。そのためにまずやることは、広く市民にこの制度を理解していただいて、一人でも多く利用していただくというのが現在考えていることございまして、金額を、助成を引き上げるかということにつきましては今後の課題になろうかと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 私としましては、先ほども申しましたように、これはできれば全額補助してほしいと思うんですが、全額補助してもらって、ほかの事業は金がないからやらないよというようなことになっても困りますので、今後助成金額を少しずつ上げていってほしいというふうをお願いをしておきたいと思います。こう言いまして、本当に担当の方なんかからすれば、単独事業ですから——国の方針が在宅ケアに力を入れていこうということははっきりしているわけです。今国からの予算の裏づけが全くない状況の中でやっていかなきゃならないということについては、市町村にはこれからこういう事業を進めるについては財政負担が非常に大き過ぎるということなんで、口は出すけれども、金は出さないという国のやり方については本当に問題があるというふうに思っておりますが、目標はできれば全額を補助していただきたいということで、今後その都度その都度の検討をお願いをしておきたいというふうに思います。

次の福祉カーの問題なんです、この数字を見ますと、相変わらずと書いていいような利用率ではないかと思うんですが、ほかの市町村でも福祉カーのあるところはたくさんございますが、それがどのような状況にあるのかおわかりになりますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 他の市町村の状況につきましては、手元に資料

がございませんので、取り寄せて、後ほどお答えしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） はい、わかりました。

私の聞きましたところによりますと、他市町村でも似たような状況にあるというふうに聞いております。福祉カーはあっても、眠っているような状態であるというふうに聞いております。本当にこの利用回数少ないんですけれども、利用しないのか、できないのか、何が問題なのか、この利用の少ない理由をどういうふうにお考えになっていますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この福祉カーの利用に当たっては、普通運転免許で実は運転をできるわけでございますけれども、普通の乗用車と違って多少大きいということから、恐らく運転するのに不安だということではなかろうかと思います。そういったことで、ほかの利用につきましては、実は福祉タクシーという利用制度があるわけでございます。そういった利用も実は市民の多くが利用されている、そんなこともこの福祉カーの利用の低迷ということの原因ではなかろうかというふうに判断をしているところでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 私もこの車を見せていただいて、本当に大きくて、私なんぞ運転が下手ですから、余計運転する気にはなれないです。やはり運転手さんがいないということが私は問題ではないかというふうに思うんです。これを借りるについては、運転手さんはこちらで用意しますというふうなことにはなりませんか、お願いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 運転手をお願いしたいということでございますけれども、現在のところ、実ははっきり申し上げまして、当面は考えておりません。運転手といたしますと、人件費の関係が出てまいりますので、今後の課題としてお聞きしておきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 当面考えていないというお答えですが、福祉カーを利用されていないとき、この車はどうなっているんですか。どこに置いてあるんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 場所は本庁の北側でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） せっかくあるものなんですから、人件費の問題とか今おっしゃられましたが、どうしたら利用されるのかということをやっばりお考えいただきたいと思うんです。せっかくあるものがむだじゃないですか。もったいないと思います。恐らく担当の方も私は運転手さんだ、ネックは運転手さんじゃないかというふうに把握をしているんじゃないかというふうに思うんですが、この専任の運転手さんをつけるということでやって利用者が多くなっていくのかどうなのかは私もここではわかりませんが、少なくとも利用促進に向けての第一歩にはなるわけですから、いつまでも本当に少ない中での待ちの姿勢じゃなくて、利用をするように何らかの方法をとっていただきたいというふうに思っております。よろしく願いをいたします。

医療の充実についてですが、庄司市長も市長選の折には医療体制の充実を訴えていたと思います。私も議員の選挙の中では似たようなことを訴えてきております。市民が強く望んでいることを我々は知っていますから、そういう経過があったわけです。高度医療の設備の整った病院と近くのまちのお医者さんですか、これはやっぱりなくてはならないわけなんです。先ほど現状でわかっているお話をお伺いをいたしました。今後希望を持っていいたいというふうな判断でよろしいんですね。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この関係につきましては、先ほど市長から答弁したとおり、館山市が借用願いの出ました用地につきまして協力しましょうということで実は回答したわけです。これを1つのきっかけとして、これから建設の方向に向けていただければというふうに期待を実はしているところでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 土地の問題とかの話が初めて具体化しているようですので、本当に一日でも早く市民の皆さん、近隣町村の皆さんが安心して行けるように願っております。

最後の質問なんですけれども、総合検診についてなんですけれども、確かに受診率は非常に高いということで、県下でも評価をしているようでございます。ただ、小さな事業所で働いている人たちで、仕事の支障を考えて、休んだり時間をもらったりということができない人たちがまだいるということをお考えいただきたい。こういう人たちはやっぱり監督署の指導ということもあるんでしょうけれども、たしか50人以上の事業所については報告義務があるというふうに聞いておりますが、それ以下の事業所については、検診をしなかったというところがわかったときのみ勧告をするというふうに聞いております。ところが、実際には非常にあいまいで、それが行われているかどうかということは疑問です。今後監督署などと連携をしながらこの検診の受診促進に向けてやっていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

一つだけちょっとお聞きしたいんですが、検診を受けない方へのアンケート調査をなさいましたよね。最近ので、近いので結構ですが、その理由がわかりましたらちょっと教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） アンケートをとったその結果はどうかということでございますけれども、その中でお聞きしていることは、恐らく受けない理由ということだろうと思います。その受けない理由としまして、642名の方から回答がありまして、主な理由としては、1番が健康に対する意識の度合い——度合いといいますか、面倒だとか、あるいは忙しいだとか、そういったことで受けない人たちが319人の49.7%、それから2番目の治療中だとか、あるいは今ほかで検診を受けていますよという理由の人たちが262名の40.8%、こういった内容が主な理由でございます。

先ほど御質問いただきました福祉カーの他市町村の利用状況ということでございますけれども、今の時点で照会してわかっている内容につきましては、千倉町が利用件数2回、2件、それから鋸南町が19件ということで伺っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質問を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 私は、リゾート開発の見直しを中心に4項目の質問をいたしたいと思います。

質問に先立ちまして、昨日衆議院本会議におきますところの自民党総裁の河野さんの質問を聞いておりまして、いろいろなことを感じたわけでございます。随分嫌みのある質問だな、私もああいう形の質問に受け取られているのかと思うと何かちょっと残念な気がしまして、少なくとも私は庄司市長の政策そのものについてはほぼ一致していると思うし、その政策を伸ばしてやりたいという気持ちでもって質問しているわけでございまして、それをプレーキかけてやめさせようだとか、河野さんみたいに細川さんの首をとろうなんていうことは毛頭ございませんので、その点はひとつそういう観点からよく聞いていただきまして、腹を割ってひとつ御答弁をいただきたい、このように思ったわけでございますので、まず心境を申し上げておきたいと思えます。

続きまして、これまで館山市におきましてリゾート計画に取り組んできたわけでございますけれども、これは先ほど増田議員から質問ありましたように、ここ5年間はまさに館山はリゾートブームの中で、リゾート一色と言っていいくらいにまちを挙げて取り組んできたわけでございますので、その上に立って今日――増田さんじゃございませんけれども、あれが夢のようなことに終わるんじゃないかと思うと、一抹の寂しさを感じるという御意見が出されたわけでございますけれども、私はそうなったら大変だろう、ただでは済まないんじゃないかというふうに思いまして、ここら辺はひとつ厳粛に確

認をいたしまして、市長を中心にいたしまして、私どももその事後対策に全力を挙げなきゃならないというふうに考えているわけでございまして、そういう観点から質問をいたしたいと思います。

御承知のように、昭和62年の6月に閣議におきまして四全総が決まったわけでございます。この内容は、二全総、三全総と違ひまして、日本経済が大きく発展し、世界経済の1割を占めるに至った。そして、この経済力で世界経済に貢献をしなきゃならない。さらに、この経済力を国際社会をリードする日本国民の地位にふさわしい、豊かな文化生活を向上させるために役立てなきゃならないということが盛り込まれたわけでございます。まさにこれは、経済一辺倒の三全総から、列島改造計画を反省して、これからはゆとりのある豊かな国民生活への転換として高く評価されたわけでございます。その目玉として、主要政策の柱に初めてリゾート地域の整備という項目が取り上げられたわけでございます。これと前後いたしまして、昭和60年には半島振興法が成立したわけでございまして、当館山市におきましては、この半島振興法の適用を受けると同時に、四全総におきますところの東京湾横断道路の実施、さらには東関東自動車道館山線の決定、これらがなされたわけでございますので、非常に勢いをつけまして、このリゾート計画に市民は沸いたものと思います。

こうした背景に立ちまして、当時の市長は即座に地域振興課をつくり、積極的な対応をしてきたわけでございます。その結果、61年3月には館山海洋性リゾートタウンを柱に館山市の総合計画が決定されました。63年3月には館山海洋性リゾートタウン基本構想ができ上がったわけでございます。これが平成元年4月には、この2つの基本構想がもとになり、県の房総リゾート地域振興構想の中に盛り込まれたことは御案内のとおりでございます。そして、3つの重点地区が盛り込まれ、国の承認を得たわけでございます。ここに初めて館山市のリゾート計画は具体化をしたわけでございます。市内の3つの重点地域、そしてその事業規模 2,000億円、開発企業に日本を代表する企業である熊谷組、三井不動産、大林組という企業がこれを引き受けてくれたということでございますから、この内容、規模は日本一の計画となり、全

国から注目を集めたことは御案内のとおりでございます。こうして、館山市がリゾート地として大きく発展することは疑いのない事実であったわけでございます。

しかしながら、世の中というものは思うに任せません。バブル経済の崩壊が訪れたわけでございます。これは庄司市長が就任すると同時に崩壊したわけでございますので、そういう中で市政運営に携わるということは非常に市長としても大変なことかも知れませんが、これは人の運でございますからどうしようもないとして、3年有余たちまして、このバブルは日に日に深刻化している状況でございます。そのあおりの中でもって、全国的にリゾート計画の見直しが迫られておりまして、館山市もこの例外でないことは先ほど明らかにされたところでございます。

こうした状況の中にもかかわらず、市長は昨年3月議会でもって——ちょうど1年前です。神田議員からリゾートの見直しを今ここでもって発表すべきじゃないかということでもって追及されました。そして、同じことを6月議会において私から質問をいたしました。神田議員に対しては、市長は国及び県の動向を踏まえながら対応したい、こういう答弁でございました。私の質問に対しては、館山市の3地区の状況については、南たてやまマリパーク計画と太陽海岸平砂浦計画につきましては、開発業者において都市計画法に基づく開発手続の準備中であるということが答弁されたわけでございます。先ほどの増田議員の同じ質問に対しまして、市長は私に言っておりましたのと全く同じ、2つの計画が今開発事業の許可を受けるべく準備中であるという答弁でございます。しかしながら、その実態はそう甘いものじゃないし、もっと深刻に進んでいることを御理解なされておるのかおらないのか、この点について私は明らかにしたいと思うわけでございます。

具体的には、この1月の13、14日に西岬地区の2つの町内会におきまして、町内会の招集によりまして、事業者の方から開発に対する説明会が開催されました。その内容の中においては、これまでの計画はいろいろな条件をクリアすることができないのもって見直ししなきゃならない。多く確保した土地については、今後これを何とか活用しなければ企業としても容易じゃない

のもって、これから考えていきたい、しばらくの猶予を置きたい、こういう話し合いが大筋であったようでございます。そこで、この西岬地区におきますところの開発業者の計画の見直しの発表は、同時に企業の引き上げというふうに理解できるわけでございますけれども、この観点に立って私は質問を進めてまいりたいと思うのでございます。

まず第1点は、さきに申し上げましたとおり、南たてやまマリンパーク計画並びに太陽海岸平砂浦計画の開発事業の今許可の手續中だということでございますけれども、その内容はどういうものか、そしてどのぐらいの進捗状況にあるのか、内容を明らかにしていただきたい。

第2点目、南たてやまマリンパーク計画の見直しと言われておりますが、その見直しの内容は何をどのように見直しをしようということをしておるのか、この点について開発業者の方からどのような話を受けているのか、どのような相談を受けているのか、この点をひとつ — もうこの段階でございす。率直に明らかにしていただきたい。

第3番目に、承認を受けた基本構想を変更しようとするときは、国の承認を得なくてはなりません。この手續を市は県にすべきだと思います。この点はどう思うのか、お伺いをいたします。

計画の見直しということは、現時点では同時に白紙撤回ということにつながるということを県の担当者との話の中でもって聞いております。白紙撤回という事態になると、それに伴って生じるところのいろいろな不利益、後始末は大変なものだと思いますけれども、どういうことが想定されるか、今の段階でもって市は把握されておるのか、把握されておらないのか、この点を明らかにしていただきたいと思います。

2項目目の質問に移ります。ビーチ利用促進モデル地区の推進についてお伺いをいたします。質問の趣旨であります、昨年3月に館山市都市マスタープランが発表されました。その内容は、平成12年を目標年次にいたしまして、館山市の基本構想の計画指針が書かれたわけでございます。このマスタープランの中に示されている北条海岸の計画には、この2月の17日の市議会全員協議会に配付されたビーチ利用促進モデル事業計画の図案は全く盛られ

ておらないのでございます。したがいまして、このマスタープランの中では、北条海岸は緑地地帯としてずっと沖ノ島の方まで整備をしていくというふう  
に書いてあるわけです。しかし、このモデル計画には、あそこを道路にし、  
そして駐車場にして、コンクリートの土手を築いていくということござい  
ますから、まさにマスタープランの計画を否定する内容になっているわけ  
でございますけれども、この辺の整合性がどうなっておるのか、私は3点につ  
いて質問をいたす次第でございます。

そのまず第1点、ビーチ利用促進モデル事業計画の図案はどこに依頼して  
作成したのか、どのような形——すなわち、調査、市民の意見を取り入れて  
作成されたのか、その内容を教えていただきたいと思うのでございます。先  
ほど、3月2日ですか、委員会を開いて検討したと言うけれども、3月2日  
に開かれた委員会のメンバーと、そして討議された内容についてひとつあわ  
せて明らかにしていただきたいと思います。

第2点、現在の海岸はヤシとか松、それから椿、花等がボランティアの協  
力を得てすばらしく整っております。非常に好評でございます。これを支え  
ているボランティアの人たちの意見、さらには海岸を利用している茶店の人  
を初め、海水浴を対象にした業者等が多くおりますけれども、こういう人た  
ちの意見というものを聞いたのか、そういうものを反映してこのモデル計画  
というのはできておるのか、この点についてお伺いをしたいわけございま  
す。

3番目には、このモデル調査は国の補助金で行ったわけでございますけれ  
ども、調査の結果は国、県が事業として実施してくれるのかくれないのか、  
その点について明らかにしていただきたいと思うのでございます。

3項目目の質問に移ります。館山市の基本計画とマスタープランの変更で  
ございます。先ほど申したように、まず第1点は、リゾートの重点整備地区  
が見直しされるということになりますと、館山市の基本計画——これは12年  
まであるわけでございますけれども、骨抜きになってしまいます。見直しし  
なければどうにもならないというふうになってしまいますけれども、この点  
はどのように考えておるのかお伺いします。

2番目には、ビーチ利用促進モデル計画でございますけれども、この計画と館山市のマスタープランとは食い違っております。どちらが優先されていくのか、この点について明らかにしてもらいたい。

4番目の質問をいたします。滝川、山名川流域の冠水について御質問を申し上げたいと思うのでございます。この地域の冠水は目に余るものがあるようでございます。昨年だけでも2回、館野地域、江田の方に至るまで冠水したそうでございまして、聞くところによりますと、市長の自宅のすぐ近くまで水が流れ込んで、非常に危ない状態にある。地元の人に言わせると、市長にも随分お願いして、市長もやるやると言っているけれども、どうも辻田君が反対するもので、市長も遠慮してできないんじゃないか、おまえ何とかしろということを言われて困っているわけでございまして、私はそういうことは毛頭思っておりませんでもって、どうかそういうことが少しでもあったらひとつ誤解を解いていただきまして、あの状態は一刻も早く解消するようにひとつ遠慮なしにやっていただきたい。特に、去年は秋山議員を中心にいたしまして境川の改修の組合ができて、県にも陳情されたようでございますけれども、こうしたことが施政方針演説の中に書かれておらないということについては非常に私は心外でございまして、どうしてあれだけの地域の盛り上がりになっているにもかかわらず施政方針の中から脱落しているのか、意識的に落としたのか、やる気がなくて入れなかったのか、私はちょっとそこら辺の理解に苦しむわけでございまして、私は積極的にこれをやってもらいたい。

同時に、館山の工業団地の排水。造成が進むと、あそこの排水路は大変なものになる。今でも大変なところへあの水が流れ込んだらどうにもならない。これを市はどう考えているんだということが言われておるわけでございますけれども、この点については、市は十分にあそこの広い地域の造成によるところの排水、これが今のあの地域に流れていっても大丈夫なような対応はされていると思うけれども、どのようにして、どのぐらいの量の水をどう処理するかということについて明らかにしてもらいたい。これがきちんとしてましないと、造成が進んでいく。公害が出てきます。大混乱が起きますので、私は

工業団地が一日も早く完成するためにも、この排水計画をきちんとするということが大事だろうというふうに思うわけでございまして、どのようにこれに取り組まれているのか。あそこの排水計画委員の一人に聞いたら、委員に任命されたけれども、内容は討議されていないよ。市の方は大丈夫と言っているけれども、我々わかんないけれども、教えてくださいよ、こういう頼りない意見でございましたので、よく市議会の中で聞いておく、こういうことでもって聞いているわけでございますので、そういった観点から、ひとつこの工業用水の排水計画はどのようになっているのか明らかにしていただきたいと思います。

以上、質問を終わります。答弁により再質問をさせていただきたいと思えます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

まず最初の大きな、リゾート開発の問題に関します第1点目 — 昭和52年以来の歴史をお話いただきましてありがとうございます。最初にお礼申し上げます。リゾート開発業者から提出されました開発許可申請の内容についての御質問でございますが、都市計画法に基づきます開発許可申請はまだ提出されておられません。事前協議が終了したときの内容では、南たてやまマリンパーク計画は、開発面積約 168ヘクタールで、主な施設はゴルフ場、テニスコート、リゾートホテル、美術館等でございます。また、太陽海岸平砂浦計画は、開発面積約 144ヘクタールで、主な施設としてゴルフ場、野鳥観察舎、リゾートホテル、研修センター等でございます。なお、館山レインボータウン計画は、現在のところ開発業者は未定でございます。

次に、小さな第2点目、南たてやまマリンパーク計画の見直しとその対策についての御質問でございますが、この計画は民間主導型の開発でございますので、開発事業者から見直しの協議があった場合は、それぞれの役割分担を踏まえまして対処してまいりたいと考えておりますが、開発業者からは見直しをする段階に来ているとの話は聞いておりますが、現在のところ館山市

に對しまして具体的な協議までは来ておりません。

次に、第3点目、重点整備地区の見直しによります諸問題と白紙撤回についての御質問でございますが、重点整備地区は、それぞれの地区の特色を考慮し、リゾート地にふさわしい地区として設定されたものでございまして、見直しをするということはございません。白紙撤回ということはございません。

次に、大きな第2、ビーチ利用促進モデル地区（北条海岸）の推進について、その1点目、モデル事業基本計画図（案）の作成とその経緯についての御質問でございますが、平成4年度から5年度にかけまして千葉県が地元関係町内会長等から意見聴取するとともに、学識経験者でございます大学助教授を委員長として、運輸省、千葉県、館山市、館山船形漁業協同組合及び館山商工会議所から委員を委嘱しまして、ビーチ利用促進モデル事業調査検討委員会を組織いたしまして、これらの審議を経て基本計画図（案）を策定したものでございます。

次に、第2点目、緑地帯の保存と海岸利用者の要望についてでございますが、この緑地帯につきましては、本事業の中で新たに整備される計画になっております。館山市といたしましては、関係者の意向等を把握しながら、千葉県に對しまして質の高い海岸空間の創出を要望してまいりたいと考えております。

次に、第3点目、今後の事業の推進とその事業主体についてでございますが、この事業は、運輸省の補助により、千葉県が事業主体で実施するものでございます。館山市におきましては、海に生きる人たちの協力をいただきながら、積極的に対応したいと考えております。

次に、大きな第3、基本計画とマスタープランの問題でございます。その第1点目、リゾート重点整備地区の見直しと基本計画についての御質問でございますが、先ほどお答えしたとおり、重点整備地区を見直すということはございませんので、御理解を賜りたいと思います。

第2点目、ビーチ利用促進モデル地区計画と館山市マスタープランについての御質問でございますが、館山市都市マスタープランにおきましては、北

条海岸に隣接いたしました都市計画道路船形―館山港線を海浜軸と位置づけ、海浜、道路、町並みが一体となった潤いのにぎわいのある南欧風のイメージ空間の創出を目指しているところでございます。一方、ビーチ利用促進モデル事業につきましては、館山市都市マスタープランの方針に整合するよう千葉県に要請いたしました結果、本マスタープランの方針に沿った内容で基本計画の策定が行われているところでございます。

次に、これまた御激励をちょうだいしました大きな第4の滝川、山名川流域の冠水に関する問題でございます。その第1点目、山名川流域（館野地区）の冠水の現況と対策についての御質問でございますが、当地域の排水路につきましては、県営は場整備事業により整備されたものでございます。降雨対策といたしましては、24時間排水として設計、施工されておりまして、このことは当初計画で了承済みと聞いております。なお、流末となります2級河川滝川につきましては、館山市並びに促進協議会において千葉県に対しまして早期改修を積極的に要望しているところでございまして、御協力いただいたことに感謝しますし、議員のどうのこうのはございませんので、お断りしておきます。

次に、小さな第3点目、館山工業団地の排水量の見込みとその対策についての御質問でございますが、御案内のとおり館山工業団地は、進出企業の意向を十分に反映させるため、オーダーメイド方式の工業団地として整備するものでございます。したがって、現時点では造成面積等も定まっておりませんし、雨水の排水につきましては、調整池に集水後、稲川排水路に放流する計画でございます。なお、調整池の容量等詳細につきましては、今後千葉県企業庁が行う基本設計等により決定してまいります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 今の答弁の中で十分な説明がなされておきませんので、再度お伺いしますけれども、南たてやまマリンパークの事業者が1月の中旬に地元の説明をしたわけでございますけれども、それはいろいろな諸条件のクリアができないので、これ以上事業を進めるわけにはいかない。し

たがって、見直しをせざるを得ないということが言われておったようでございます。この点をどのように聞いておるのか、まずこの点についてお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 御質問の地元への説明会の内容でございますけれども、現在いろいろクリアしなければならないような問題といたしまして、開発許可申請を進めなきゃいけないわけでございますが、地権者の同意をいただくのに大分時間がかかっている。そういうような中で、企業といたしましては継続して、引き続き地権者の皆さんに交渉をして同意をいただくように進めていくけれども、ある時点で、許可申請のタイムリミットもあるわけでございますので、そういう見直しというような判断をしなければならない。特に、今回の地元説明につきましては、現況について説明をしたいというふうなことで私ども話を聞いておりました。そういう中で今申し上げたような話を地元の方にされた、そういうふうに私ども承知しております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 先ほどの市長答弁の中におきましては、マリnparkにつきましては、その規模は168ヘクタール、そして太陽海岸平砂浦計画については144ヘクタールということが言われております。しかしながら、基本計画作成時の承認された規模は、マリnparkは210ヘクタールでございます。半分に減っています。太陽海岸平砂浦計画につきましては240ヘクタールでございます。これも半分に減っております。当然見直されるはずでございます。先ほど部長の増田議員に対する答弁の中でもって、共同通信社の発表によると、全国で77の重点地区が見直しを迫られている。その中でもって、縮小がなされているところが10カ所あるということをしているわけです。半分に減ったということは縮小じゃございませんか。あの基本計画の承認は、半分に減ったことをそのまま遂行するというのは困難であり、これは当然承認を得るという作業をしなければならぬと思うわけでございますけれども、この点はどのように考えておるのか、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） ここでお答えしました開発面積の南たてやまマリンパークの 168、太陽海岸平砂浦計画の 144、これは山間部のみのいわゆる開発面積、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 事業認可についてはもう変わっているんですから、山間部だとか何とか、そういうことを言ったってだめですよ、これは絶対的に。よしとします、それはそれでもって。ここでやったってしょうがありませんから。事実は 210、これはちゃんとパンフレットにも載っているんです、県の立派な中にも。それが半分に減るなんていうことで、それがそのまま承認できるというものではございません。リゾート法の中にも、見直しは直ちにやらなきゃならないという条文もあるわけでございます。主務大臣の許可を得なきゃならないということになっているんですから、したがって縮小ということは見直し手続をとらなきゃいけないわけでございますから、その点についてやっぱり率直にあれしてもらいたい。海岸とか何とか、そんな言いわけじゃ済まされない問題。

2番目に、太陽海岸平砂浦計画の中にありまして、事業主体は既に1年前から、事務所そのものには看板がかかっているけれども、ほとんど駐在員は駐在しませんし、そこの主たる——熊谷組でございますから、あそこはもう事業を撤退したということを明らかにされているそうでございまして、あれの下請としてやっていたところは館山リゾート開発というんですか、あそこの会社も既にそっちこっちに借金を残して、地域に迷惑をかけて、何かどこかの方へどろんしちゃって困っているということも聞いております。実際にはもうあれは挫折しちゃっておる。どうなるんですかということがいろいろと出てきておるけれども、この点についてどうして事業認可計画が——3月の議会、6月の議会、そしてきょうの増田議員の質問に対しても、事業認可手続を行っております、これをやっていきますという答弁でもって済まされるんですか。事業は見込みあるんですか、こういう状態の中で。この点につ

いてお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 太陽海岸平砂浦計画の件についての御質問でございますが、確かに現在社員というのは、私どもの方には絶えず1人常駐はさせておくというような企業の返事でございます。これは毎日というような状況かどうかは把握はいたしておりませんが、企業からは地元からの連絡をとるために社員は1人地元においておくというふうに私ども聞いております。

それから、確かに事業が一時中断しているというような、そういう話も私ども聞いておるわけでございますけれども、これはいろいろ金融の面で大きな課題を抱えている。その調整が現在まだとれていないというようなことから一時休止をしている。それがクリアできれば引き続き事業は進めていく、こういうふうに企業の方からは伺っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） このリゾート法の中にはいろいろな優遇措置があるわけでございます。9つございます。これは既にことしの6月には全部切れるんです。いいですか。優遇措置を受けられないんです。館山も税金の免除の優遇策5年というのが切れて、この4月ですか、切れるから、これを平成8年まで2年延長した議案が提案されております。同じでございます。リゾート法10条、資金の確保、11条、公共施設の整備、12条、国の援助、13条、地方公共団体の助成、14条、農地法の対応、それから15条、国有林の活用、そしてこの税制の特例ということが法律で決まっているわけです。みんなこれ時限立法です。あと一、二年で全部切れちゃうんです。したがって、県とも話したんですけれども、今の段階で事業認可を多くすることは、あと1年なり2年以内にこれが出てきて事業をやるということはもうほとんど、100%不可能だろうということの見解も参っております。やるやらないは別として、あとその期限まで幾らもない、全部法律切れちゃう、こういうことを言われている中でもって、現在の館山の開発許可準備手続——法律があるんです。期限があるんです。館山市の場合にはことしで切れるものを2年延長し

たんですけれども、したがってその2年以内 — 他の法律はさまざまでございますけれども、それについて、いまだにこの重点整備の事業ができると思っているんですか。端的に言って、熊谷組、さらにはマリリゾートの業者、これらについてはある程度全面的に見直しするというわけですから、新たな計画を立てるということは1年やそこらでできるわけじゃないし、新しい企業を持ってきてやるったって、そう簡単にできるわけじゃありませんので、もう事実上これはだめだというふうに見ていいんじゃないか。県の人も、だめだとは言いませんけれども、館山市のことだから大変難しいですね、こういうことで言っておられました。この点はどのように考えておるのか。

先ほどの答弁じゃ、ごまかしという以外何も受け取れません。もうだめならだめでもって、去年の3月には神田議員、6月には私の方から見直しなら見直しということを早くやった方がいいんじゃないですかということを質問したら、いや、今事業計画の準備中だということでもって突っぱねてきている。こういうふうに突っぱねてもいいです。だけれども、その後に来るいろいろな問題というのは大変な問題が起きてくるでしょう。テレビや週刊誌でもって騒がれているんです、全国的に。館山がああなったらどうするんですか。

そういう中でもって整理して聞きたい。事業は10%でも20%でも可能性はあるんですか、今のものが、これ見直ししなくて。その点についてお答えいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 見直しに関しましての御質問でございますが、先ほど市長の方からも御答弁申し上げましたように、このプロジェクトは民間企業が計画をしたものでございまして、今までの経緯の中で、民間企業の方から見直すというような協議といえますか、そういう申し入れは市の方にはないわけでございます。先ほども御答弁申し上げましたように、地権者の同意を得られれば事業は進められるということで進んできたわけでございます。たまたま今回状況によっては見直しをするというようなこともあり得るという企業の方からの話は聞いております。もし見直しを決定ということで

市の方に具体的に話が参りますれば、そのような対応をしてまいりたい。企業のいわゆる意欲といいますか、引き続きやるということで私ども伺っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） リゾート法の6条には、この見直しをする場合には主務大臣の承認を得なきゃならないということが特に書いてあるわけです。もう既に1月の中旬の西岬地区の説明会で見直しをしようと言っているでしょう、企業者は。それと同時に、今まで買収した土地が、また借りた土地が随分ある。これらについてはこのままにしておいたんじゃ、自分の会社も何十億と投資しているのもってむだになってしまうので、何とかしなきゃならない。そのために、これから考えるけれども、いましばらく待ってほしいということと言われたそうでございます。これは人から聞いたんですからどの程度正確かわかりませんが、三、四人から聞いた話じゃみんな同じことを言っていました。見直しじゃありませんか。許可は要らないんですか、それ。許可をとってから、あと1年そこそこでもってもう打ち切りです、承認の時限というのは。見直しの申請というのは同時に白紙撤回だということを先ほど申したように、それが今の事実です。知らないんですか、館山市は。そこまでいって、企業の方はもう既に見直しだと言っておる。太陽海岸平砂浦の企業者も、これはこのままいかないから、全面的に見直しすると引き揚げちゃっている。それでもって、新しいものが出てこない段階でもって、どうしてこれが、リゾートが実現できるんですか。この点について伺います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 期限がなくてできないんじゃないかというふうな御質問でございますが、先ほど私申し上げました、開発の許可申請のタイムリミットというようなことで申し上げたわけですが、これはこのプロジェクトの、事業の中心事業でありますゴルフ場、この関係が事前協議終了後3年以内に許可を受けるということになっておるわけでございます。現在その

同意を、地権者の同意を求めていますのも、主としてゴルフ場の開発許可申請を提出するための同意でございます。したがって、これは例えばの話で大変恐縮でございますが、ゴルフ場以外の計画を進めるということであれば、事業の継続は可能である、こういうふうに私考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 先ほど企業と自治体の役割はおのずから違うということを行っていますけれども、こういうことを今さら言うということは大変なことだと思います、私は当時から携わって。このリゾート法施行承認に当たって、こういうことが通達されているんです、文書でもって。第1には、地元市町村の受け入れ態勢が十分できておるのかどうなのか。そして2番目には、自然環境の破壊とか、そういう問題でクリアできるのかということ。そして3番目には、大規模な土地の確保ができる見通しがついておるのかおらないのか。それで4番目には、民間企業はこのものに対して受け入れることができるのかどうなのか。これらの熟度の高いところから選択して、館山はこれらのいずれも——県の示した方針です。国が示した方針です。これじゃ、館山は日本一積極的にやったんです。だから、一時期に660億の開発事業が3つもされるなんて全国に一つも例ありません。総額からいっても、2,000億なんて初めてです。こんなちっぽけな館山に2,000億円の事業が行われるんですから、大変なことです。だけれども、それは全く夢話じゃないですか、増田議員の話じゃありませんけれども。それが今日の前に見えているんです。

その中心はゴルフ場です。ゴルフ場がなければ何もできません、それは。ゴルフ場については、今ははっきりしているのは、バブルの崩壊によりまして会員権が売れなくなった。利用者は下がる。そして、規制がうるさくなった、千葉県知事はもう千葉県でもって新規の許可は認めないということを再三言っておる。そういう中でもって、もうほとんど不可能だということ。リゾート開発によってゴルフ場ができなければ、どこから金を集めてくるかという見通しが立たないのはもうだれでもはっきりしているわけ。そういう中でも

って、まだ甘い汁にすがりついていることについては、大変な事態が起きるんじゃないですか。

そこで、なぜ私はこれを聞きたいかという、重点指定地域の中でもって構想に入って、事業計画は、向こうに提出されているものについては、そこを他の用途に利用できないでしょう、その規制を外さなければ、重点地区の。重点地区の地域に指定されておるから、先ほども言った9つの優遇措置が法律によってされておるわけ。その優遇を受けられる地域の土地の——新聞紙上じゃ、この3項目目の土地の買収がある程度できるというときに——当時の新聞です。二、三年前の新聞。館山のリゾート計画については70%から80%土地の売却ができたというようなことが報道されておったじゃないですか。そういうことを背景にいたしまして県にやったんじゃないですか。県の方も館山は随分進んだなということによっておったんですけれども、この点はどうか。今になってくると、土地の買収ができないから、こういうことでございますけれども、当時、新聞報道その他でございますから正確ではございませんけれども、そういうことが言われておった。県の人も、館山の土地買収は随分進みましたねというようなことは、どういうことか、私にも言っておった。それがこの大規模なリゾート計画の承認になったわけです。それが今うそということになりはしませんか。

その点でもって、土地の買収状況、この地域におきますところは正式には——正式と言うとおかしいんですけれども、大体どのぐらい進んだというふうに思っていますか。新聞報道では80から90ぐらいというようなことが言われておったんですけれども、実際に今市が把握しているのはどのぐらいなのかおわかりでしょうか、その点についてお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 土地につきましては、一応同意という形で私も把握しておるわけでございますが、両地区ともいずれも90%を超えているということで承知をいたしております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 90%承知しているといいますと、当初の計画でいきますと500平米です。今市長が答弁された方の計画でいきますと約300平米です。280平米ぐらいになります。これだけの土地が既に関収が終わっているということになりますと、ゴルフ場はできない。そして、あと一、二年の間にその許可がおりない。ペアになる。その土地はどうなるんですか。買った金はどうなるんですか。金利もつきます。私は、一部の企業にしたら大変だよ、これがなきゃもう会社の命取りになるよというようなことも言われています。これは何とかやらなきゃいけないとは思っているけれども、いい方法はありませんかね、こういうことです。それと同時に、地域にしてみれば、その開発計画の土地そのものはほかに何の利用もできないのです、それが解消しない限りは。そうすれば、あの広大なリゾート地域、脚光を浴びた地域というのは、全部この法律の規制によって逆に何も利用できないということで困るんじゃないか。早くだめなものはだめ、そして企業に対してはその欠損、こういうものはどう対応するのか。そして、あの地域は地域らしく、今度は小規模なということを言われておりますけれども、そういう規模の開発計画を新たにつくっていかなくちゃいけない。しかしながら、今のこのリゾートの枠がはまっている中じゃできないじゃないですか。生殺しのままでもって、これでもって何年続いていくんですか。日進月歩の中でもって、館山は大変なことになります。私はこの際市長はその決断をきちっとして、そして率直にやっていく。

この17日には総務庁の方から来て、見直しの説明があるそうじゃございませんか。今の館山の実態からいったら、当然見直しを勧告されるような状況の中に入っていると私は思います、どう見ても。この点どのように——向こうで言われて、だめですよ、そうですか、こういう後手後手に回っていくんですか。そんなことでは、この厳しい状況の中でもって、そして半島振興法の指定を受けている館山市が発展しようなんていうことは当然望めなくなってきました、その挫折感といえは大変なものになります。今こそきちんと整理して新しいものに向かうべきだと思いますけれども、その点どうなのか。90%の土地を確保されているということですから、その土地はどうなるの。

このまま市が態度を決めなきゃ、ずるずる、ずるずるいっちゃうじゃありませんか、何年続くかわかりませんが。大変なパニックになります。その点についての見解を教えてくださいたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 先ほどもお答えしましたように、企業の方が見直しをするというふうに決定をいたしまして、市の方に具体的な協議があれば、いわゆるもうこれで事業は中止だとかということを企業の方は — ある場合によって見直しをしても継続をするということを私ども聞いておるわけでございますので、それなりにそういう計画を進めていく、これは市の方にもそれを進めていくやはり責務というものがあろう、このように考えております。

それから、今までお話の中で、重点整備地区のお話の中で、重点整備地区を何とかしないとほかの企業が出てこれないのではないかというふうな、そういう御質問だったと思いますが、重点整備地区につきましては、これは館山市では 2,655ヘクタール指定してあるわけでございます。現在計画承認されておりますプロジェクトのほかに、これ以降こういうものを計画をしたい、こういうものをやりたいというものがほかの企業から申し出があれば、それは変更承認をすることによりまして、いわゆるリゾート法の承認プロジェクトにすることは可能であります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） きのうの夜も6チャンネルでもって夜中の2時から聞いておりましたけれども、日米交渉の大学の教授とアメリカのこちらの駐在員との討論の中でもって、日本の官僚というのは何でもこちらをごまかして、これが日米交渉の誤解だというようなことを言っていましたけれども、気持ちわかります、それは。日本の官僚というのはそういうものだと思います。館山市の職員も立派な官僚だと思っていますから、そういうふうになっているわけ。それが今だめなことわかっているんでしょう。それは理屈としてはそういう答弁できます。しかしながら、リゾート地域のものはリゾ

ート開発法に基づいて事業認可を受けなければだめでもって、新しく今度事業認可、それには事業の一部変更手続をとって、そして事業認可をとっていく、こういうふうなことが果たして現実的に可能ですか。これからやろうという事業が、熊谷組とか三井不動産と大林組というのができないという中の後始末が、どこが出てくるかわかりませんが、そんなことは現実的にあり得ることですか。大林組なんてすごいものです。私はカンボジアへ行ったけれども、アジア一のメコン川の鉄橋をつくっていて、すごいものだということで見えてきましたけれども、日本の企業もこれだけだということでもって思っていましたけれども、そういう企業が館山でやると来て、そこがだめだと逃げていったものをだれがそんなことができると思いますか。そういうことを言っちゃ私はだめだと思います。

私はリゾートをやろうということについては同じですけれども、現実的には庄司市長を支持してやっていく、これ以上になりますと、庄司市長の足を引っ張りかねないと思いますからここでやめておきますけれども、よくその内容をできるだけ詰めてください。私は庄司市長のために言っているんです。ずるずる、ずるずるこれを持っていったら、庄司市長は後世に何だということと言われます。いち早くこれは決断すべき時期に来ているんです。神田議員が質問してから1年、もう遅きに失すると思います。それは私は要望として、これ以上あれしますと、河野さんじゃありませんけれども、足を引っ張ることになりますから、あとはひとついろいろとやっていきたいと思いますので、この点は終わります。

それから、2番目にビーチ利用促進モデル地区です。北条海岸のことについていろいろな審議会でやっておるということでございますけれども、私はどう見ても整合性がとれているとは思えません。それは役所の人が見れば整合性とれているかもわかりませんが、今の11メートル道路が18メートルになるんです。コンクリートにするんでしょう。その先を、17メートルか何かをまたコンクリートにして駐車場にするというんでしょう。そこへ大体1メートルぐらいの突堤を立ててやるということでしょう。どこへ植林だとか何かをするのか。今のヤシの木だとか松の木だとか花壇は全部ひっかかっ

ちゃうでしょう。どういうふうになるんですか、あれやったの。あそこの花壇をつくったりヤシをやっているライオンズクラブの人だとか、地元の町内会の花壇を一生懸命つくってやっている人、そういう人たちの意見も聞かずに一方的にできていると思っているんですか。この点についてそうした人の意見を聞いているのかどうなのか。庄司市長はライオンズクラブにいたからわかっていると思いますけれども、あそこのヤシの保護については一生懸命です。えらい金もかけてやっています。それを一方的になくすような計画が出てきたら驚くと思います。この点について、今言った両者。

2 番目には、山中議員が何回かこの議場でもって館山に噴水をつくったらいいだろうということを提言しています。新聞でも大騒ぎになりました。漁業会と対立してえらいパニック状態を起こしたこともあります。しかしながら、いい悪いは別にして、歴代の市長は十分その意見は検討していきましようと言っているわけです。この計画の中について――山中議員は私らは尊敬する立派な議員だと思っていますから、市の方としてみればあんな1人の議員の意見や何かどっちでもいいと思っているかも知れませんが、そんなことじゃ私は済まないと思うんです。そういう点について、噴水計画や何かについて意見を聞いたのかどうなのか、この点について明らかにしてもらいたい。

それからもう一つは、J Cが鏡ヶ浦を考える何とかというプロジェクトを組んで、そしてこれを見直す云々ということでもっていろいろやっています、金もかけて。この間はあそこの博物館でもって立派な展示会をしました。また、写真展もやっています。市長は審査員にもなっております、鏡ヶ浦の写真展の。非常に鏡ヶ浦のことについて地元の若い青年という立場から真剣に考えています。この人たちの意見をやはりくみ上げてやっていかなければ、大学の教授かどうかかわからないけれども、館山に住んだことのない人が来てやるような計画じゃなくて、この若い人たちに手づくりでつくらせていかなきゃ館山の将来は築けないと思うんです。J Cのそのメンバーと率直に話したことがありますか。あれだけやっているんです、鏡ヶ浦のことを真剣に。そして、自分たちの将来をあそこに託そうとやっている。私なんか見ていま

すし、いろいろ相談に乗っています。そういったものの話し合いなり、そういったものの意見は反映されているのかどうなのか。

この3点について伺います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） まず、市民の意見でございますけれども、市長の答弁の中で地元の区長ほかということでもって御答弁申し上げましたけれども、ＪＣも含めて、団体を1つに数えますと、11の団体あるいは個人から聴取をいたしております。また、今ＪＣの関係が出ましたけれども、つい3日ほど前でございますけれども、ＪＣの理事長あるいは地域の開発担当の理事ですか、そういう方とお話をいたしているところでございます。そういう意味では市民の意見は聞いている、こういうことでございます。

それから、植栽の関係につきましては、今も18メートルの道路と言いましたけれども、18メートルの道路の次には16.4メートルのいわゆる駐車場というか、そこが駐車場兼緑地帯になるわけでございまして、そこいら辺に植栽ということは十分配慮しながら進めてまいりたい、このように考えております。

それからもう一点、噴水の件についてでございますが、一応この噴水の件につきましては、やはり何といっても実際の海で生活している人たちの考えというのがかなり部分を占めるんだろーと思います。そういう意味で、現組合長に一応お話をしたところでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 御承知のように、鏡ヶ浦というのは館山市民の心のふるさとです。学校の校歌にしろ、すべて鏡ヶ浦です、館山に象徴されるのは。いろいろあるんですけれども、その中心です。そこをやるときに、やっぱり市民ぐるみの討論をしたらいいと思います。市長は今市民座談会をやっていますけれども、ああいう形でもって、もうかんかんがくがくの意見を交わした中でもって、やはり市民がつくり上げていく鏡ヶ浦にしたらどうかと思います。時間がございませんから、その点をひとつ十分やっていただき

たいということを要望して、終わりたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時30分 休憩

午後2時51分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 既に通告をいたしました6点について御質問をいたします。

まず第1点は、去る3月1日に市議会全員協議会において御説明のありました館山市老人保健福祉計画についてであります。この老人保健福祉計画は、消費税が導入された際に、その口実とされた高齢者保健福祉推進10カ年戦略——いわゆるゴールドプランの具体化としての性格を持ったものであります。しかし、この10カ年戦略の目標は、ホームヘルパー10万人、ショートステイ5万床、デイサービス1万カ所など、在宅福祉の充実を期とするものであります。たとえそれが実現したとしても、その水準は北欧などの福祉先進国から見れば極めて低いものであります。例えば、ホームヘルパーを10万人にするとしていますが、この水準は人口10万人当たりで82人程度であります。既に80年代には北欧のノルウェーでは983人、スウェーデンでは883人、デンマークでは651人となっております。ゴールドプランを達成したとしても、北欧諸国のわずか10分の1程度の水準でしかないのであります。とてもゴールドと称するのはおこがましい計画の水準であります。しかし、それでも高齢者保健福祉の置かれている現状やこれまでの福祉軽視の推移から見れば、その水準を確保するということは大変な課題だということも事実であります。私は、このゴールドプランの水準は決してゴールドと言えるようなものではなく、本格的高齢化社会を目前とした中で、今世紀中にどうしても整備すべき最低の課題を示したものにすぎないと理解すべきだと思うのであります。そういう意味では、この計画は極めて控え目のもので、あたかも輝か

しいというイメージのゴールドプランという言い方は誤解を与えかねないものだと思います。

先ほど御紹介しました福祉先進国と言われるデンマーク等の北欧諸国には日本のような寝たきり老人はいないと言われます。老人ホームなどの施設が整備されているとともに、在宅の場合でもホームヘルパーの派遣により保健、福祉などケアがきめ細かく行われ、寝たきりをつくらないからであります。寝たきりは決して自然現象ではありません。必要なケアやリハビリが行われれば克服できるのであります。総務委員会で館山特別養護老人ホームを視察しましたが、ここでも離床運動ということでどンドンベッドから起こしてあげて、できる限り寝たきりにしないようにしているのだという説明を聞きましたが、確かに車いすで移動するなど、寝たきりという状態の入所者をほとんど見ることはありませんでした。ここでも必要なケアやリハビリが行われれば寝たきりは克服できるということを立証していると思います。こうした施設内に限らず、在宅の場合でも必要なケアと適切なリハビリが行われれば寝たきりを克服することができます。また、そのことがこの10カ年戦略の基本目標だと思うのであります。この老人保健福祉計画の現況調査の結果として、平成5年4月1日現在で431人の寝たきり老人がいるとしていますが、この計画では平成11年には645人に約50%近くふえると見込んでおります。寝たきりゼロを目指すはずの計画が実際は5割近くもふえると見込んでいるのであります。この計画自身が寝たきりゼロのうたい文句とは正反対の結果になるとしているのですから、だまされたような気がします。

そこでお尋ねいたしますが、館山市老人保健福祉計画も寝たきりゼロがこの計画の1つの達成目標と思うのですが、いかがお考えでありますか。

次に、そうした目標から考えると、ホームヘルパーの派遣回数の積算について、寝たきりの方への派遣回数は、Bランク、より重症なCランクでも、ともに週3回とされています。これは時間に換算しても週6時間にすぎません。これでは従来の延長線で考えているのではないか、寝たきりゼロという目標達成という視点が希薄なのではないかと思うのであります。国の目標量の設定標準は、寝たきりなどの要介護老人については週3ないし6回の間で

市町村が判断することになっていますが、市の算定基準の3回はその中で最低の数字を選択したことになります。そういうことで福祉重視の市政と言えるのでありましょうか。いかがお考えでしょうか。

次に、この計画書では、6カ月以上の長期入院は平成5年の184人が平成11年には86人に98人も減少するという見込みであります。全体の寝たきり老人数が5割もふえる中で、6カ月以上の長期入院は逆に半分以下になるというのですが、とても信じられない数字であります。寝たきりで長期入院の方を病院から半分以上も無理やり追い出してしまうというのでしょうか。そんなことは可能でありましょうか。総務庁の行政監察では、医療施設に入院している者のうち、身体機能上は入院を要しないが、入院を継続しているいわゆる社会的入院者の数を把握している都道府県あるいは市町村は全くないと指摘しております。恐らく県も市も長期入院者の実態を具体的に把握していないことと思います。調査もしないで、机上の空論で安易に半減するとの計画は無理があるのではないかと思うのであります。実態調査がぜひ必要だと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

次に、この計画には実施のための財政計画も年次計画も示されていません。したがって、6年後の目標は示されたとしても、それをどう実現していくのかの方法やプロセスが全くありません。これは必要な財源について国等に求めていくことが重要だということだと思います。また、この老人保健福祉計画にかかわる総事業費は約6兆円強と見込まれております。これは、全国の65歳以上人口に対する館山市の65歳以上人口で割り振ると、約40億円の規模ということになろうかと思います。この計画の実現に必要な費用と財源についてどのように考えているのか、また平成11年度までの年次計画が必要と思うが、この点についてどのように考えているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、シルバー人材センターへの移行の問題ということでお尋ねいたします。この老人保健福祉計画では、高齢者働く会について、今後法人格を有するシルバー人材センターへの移行に側面から援助を図っていくとしております。シルバー人材センターとなれば、国の補助金がもらえるようになります

が、そのためには 100人以上の会員が必要とされます。鴨川市では既にシルバー人材センターが発足したということでもあります。鴨川も高齢者の多い市ではありますが、いち早く発足したことは、行政の取り組み方に館山市と違う面があるのではないかと思いますのであります。側面からの援助ということは何を示すのか。市の取り組み方に消極的なものが感じられるのでありますが、いかがお考えであります。

次に、リゾート計画の見直しについてお尋ねをいたします。いわゆるリゾート法は、民間企業のリゾート開発を中心に、これを公が支援するというものですが、バブル経済の崩壊とともに、既にこの民間主導のリゾート計画は全国的に破綻いたしました。ほとんどの計画が採算のよいゴルフ場の会員権販売を計画の中心に据えていました。どこも似たり寄ったりの計画で、とても国民の健全な保養に資するものではありませんでしたから、この構想の破綻は当然であります。計画当初には事業計画の熟度が指定要件であると強調され、かなり完成見込みのある計画だけが指定されるという建前でしたが、実際はほとんどの計画が途中でとんざしてしまったのであります。

こうした中で、去る 1 月 17 日、総務庁はこうした実態に対して、極めてずさんな計画が多いと指摘し、リゾート計画の見直しを指導するよう国土庁に勧告をいたしました。事実、館山市でも民間リゾート計画は 3 つありましたが、そのうちの 1 つ、大林組を中心とした館山レインボータウン計画は、その名前のとおり、にじのようにはかなく消えました。ところが、事業者が撤退表明したにもかかわらず、その後も市は計画は依然として生きているのだということを言ってまいりました。できもしないことを平然と計画と称していたのですから、総務庁の指摘を待つまでもなく、ずさんそのものであり、計画の見直しは当然であります。また、環境保護の面での配慮不足が見られると指摘もされております。総務庁のこの勧告についてどのように受けとめておるのか、お聞かせをいただきたいと思います。また、このリゾート法に基づいた 3 つの民間リゾート計画の進捗度をどう見ているのか、そしてこれらについて計画の見直しがそれぞれ必要と思うが、いかがお考えか、お聞かせをいただきたいと思います。

第3に、水道事業の開発負担金についてお尋ねをいたします。南房総広域水道からの給水が具体的な日程に上がってまいりました。従来、館山市におけるリゾートマンションなどの建築申請には、現在の水道供給量のもとでは、それぞれの開発者に自己水源の開発を求めてきました。南房総広域水道は17市町村の共同事業として実施されておりますが、その水量の積算には、例えばリゾート開発のために、館山市営水道で日量4,000トンが見込まれております。この水量の開発負担については、開発事業者に求めることは当然のことだと思っております。こうした立場から、これまでも開発負担金について、館山市として実施すべきことを主張してまいりましたが、市もその検討を約束してまいりました。南房総広域水道からの給水が具体的な日程になってきた段階として、いよいよそれを具体化すべき段階ではないかと思っております。17市町村として、できたら共同して同じ基準によってとも考えられますが、いずれにしても開発者にそれ相応の負担を求め、それによって市民の負担軽減を図るべきではないかと思っております。こうした制度は県営水道にもありますし、近隣では鋸南町の水道が極めて厳しい開発負担金の制度をつくっております。これらを参考にして検討すべきと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

第4点は、リゾートマンションの建設規制問題についてであります。平成3年12月市議会で市長は私の質問に答え、7月から県条例が改正になり、用途地域外でも日影規制が適用され、建物周囲の避難空地についても基準が示され、施行された。だが、建築物の高さの制限については規制がないので、館山市としては建築物の高さの制限について検討している。難しい問題もあるが、できるだけ早い時期に改定を行っていききたいと答弁しておりました。この後、都市計画法、建築基準法の改正がありました。現在用途地域の見直しを中心に作業が進んでいることと思います。しかしながら、こうした事情を踏まえて、リゾートマンションなどの建築規制についてどのように具体化するかという問題があります。市はこの問題についてこれまでどのように検討をし、また今後どのように進めるお考えなのか、お聞かせをいただきたいと思っております。

第5点、改正自転車法についてであります。自転車法が昨年12月に改正されました。改正の要点は、鉄道事業者に対する規定で、鉄道事業者に積極的な努力義務を規定し、自転車等駐車対策協議会の構成員とすることで鉄道事業者が放置自転車対策にかかわるべき責任を明確にしたこと、また放置自転車の撤去、処分の権限を法的に明確化することができるようにしたことあります。条例によって、撤去、保管の公示、売却による代金保管などを定めることができるようになりました。こうした改正自転車法の内容は、館山市としてもその条例化を検討するに値すると思うのでありますが、そこでお尋ねをいたします。JRも参加した自転車等駐車対策協議会の設置を進めるお考えはありませんでしょうか。また、放置自転車の撤去や処分の法的な権限の明確化について条例化が必要と思うのでありますが、この点についていかがお考えでありますか。

第6点、いわゆる国民福祉税等、事実上の消費税増税について、市長の政治的所見をお尋ねいたします。細川首相は突然国民福祉税なる構想で、事実上消費税を現行の3%から7%に引き上げる方針を打ち出しました。しかし、寝耳に水と言うべきやり方に国民は怒りました。結局厳しい批判の前にとりあえずは撤回せざるを得ませんでした。細川首相はこの構想をあきらめてはいません。所得税、住民税をことに限って一律に20%減らし、5兆5,000億円の減税をしますが、もともと所得の少ない階層にとってはほとんど減税はありません。年収300万円クラスでは、たった1,000円の減税でしかありません。年収3,300万円クラスになりますと、220万円も減税になります。上に厚く、下に薄い金持ち減税であります。しかも、この減税は単年度であります。これと引きかえに消費税増税が行われるとすれば、庶民にとっては1年限りのわずかな減税で恒久的な増税を押しつけられるということになります。減税があるということしでも、公共料金の値上げ分が減税分を上回るという世帯の方が多くなっているのです。

減税財源がないと言っていますが、果たして本当でありますでしょうか。そんなことはありません。自民党政治の古い枠組みにメスを入れれば、10兆円台の財源は確保できます。財源はたくさんあります。まず、増税の前に財政の

浪費を一掃すべきだと言われますが、まさに正論であります。きのう、きょう報道されましたが、東京地検特捜部が元建設大臣の逮捕請求をするということがありましたが、大手ゼネコンからの政治家へのやみ献金と不正談合で公共工事費がつり上げられてきました。不正談合をやめれば、公共工事は2ないし3割引き下げることができると大手ゼネコンの元役員自身が言っておりますが、建設省の公共工事積算手法評価委員会の報告書でさえ、日本の公共工事費はアメリカに比べて3割は高いと認めております。この浪費にメスを入れ、仮に公共工事費40兆円の1割を減らせば、年間4兆円もの財源が生まれるのであります。既に日本の軍事費は世界第2位という軍事大国になっています。シーレーン防衛等、ソ連の脅威を口実にした防衛や米軍駐留費の負担は必要なくなりました。世界が軍事費を削減しているときに、日本だけは、伸び率こそ減ったものの、依然軍事費をふやしています。これを半減すれば、2兆3,000億円の財源が生まれます。その大部分を大銀行、大企業、大金持ちが所有する国債は平均6%の高利で、この利払いだけで毎年12兆円の税金が使われております。この高い金利の国債を途中償還し、低金利のものに借りかえ、金利を1%下げれば2兆円の節減となります。これは法律上も国際約款上も明記されている全く合法的なものであります。さらに、大企業への補助金の垂れ流しを縮小、廃止すれば、3,000億円規模の節減ができます。これら財政の浪費にメスを入れるだけで8兆6,000億円の節減が可能なのであります。さらに、大企業優遇税制の不公平を正せば、2兆円の増収が可能となります。大銀行の不良債権共同回収機構にかかわる減税は8,000億円になると報道されます。バブル崩壊のツケを国民に回し、税の徴収を免れようとする。とんでもないことであります。問題は、これまでの自民党政治の枠組みにメスを入れることができるかどうかということにあります。国民に国民福祉税などという当たりさわりのいい名前で大增税を押しつけるなど、絶対に認めるわけにはまいりません。市長の御所見をお聞かせいただきたいと思ひます。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

まず第1、老人保健福祉計画についての小さな第1点、寝たきりゼロがこの計画の1つの達成目標と思うがどうかとの御質問でございますが、この計画を作成する上での国の基本方針の1つといたしまして、寝たきり防止のための各種施策の充実を図ることが掲げられております。館山市におきましても、この指針に沿いまして計画を作成したところでございます。

第2点目、ホームヘルパーの派遣回数の週3回は少な過ぎると思うがという御質問でございますが、平成5年1月に行いました要介護老人ニーズ調査において、今後の利用希望回数は79.1%の人が週2回以下を希望しておりますので、国の水準と対応して、週3回といたしたわけでございます。

第3点目の6カ月以上の入院患者の現状把握が必要と思うがとの御質問でございますが、社会的入院者の実態把握は、現在の医療体制の中では非常に困難な状況にございます。

小さな第4点目と5点目の計画実現に必要な財源と年次計画についての御質問でございますが、老人福祉法並びに老人保健法において、国は市町村における供給体制の確保の状況等を総合的に勘案して検討を行い、所要の措置を講ずることと定められております。しかし、現時点ではまだ具体的な財源措置がなされておられません。館山市といたしましては、今後これらの国の措置状況及び千葉県の動向を踏まえまして、年次計画について検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第6点目、シルバー人材センターへの移行についての側面援助という市の姿勢についての御質問でございますが、現在館山市高齢者働く会は自主運営により活動しております。館山市といたしましては、シルバー人材センターへの移行について、会の自主性を尊重しながら、会員の確保及び職種の開拓等を援助してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、リゾート計画の見直しについての第1点目、総務庁による勧告についての御質問でございますが、1月の新聞報道は承知しているところでございます。具体的にはこの3月中旬に開催される会議で千葉県か

ら説明されることになっておりまして、それを受けてから対応してまいりたいと考えております。

第2点目、リゾート計画の進捗度をどう見ているかとの御質問でございますが、本日先ほど増田議員並びに辻田議員にお答えいたしましたとおりでございます。また、計画の見直しについては、この計画は民間主導型の開発でございますので、事業者からの協議があった場合は対処してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3の水道事業の開発負担金についての御質問でございますが、既に実施しております水道事業体の実情等を参考にして、今後大量に水を必要とする開発に際し、検討していきたいと考えております。

大きな第4点目、リゾートマンションの高さ制限等の建築規制はその後どのように検討されたかとの御質問でございますが、平成5年6月施行の都市計画法及び建築基準法の改正に伴い、現在用途地域の見直しに向けまして作業を進めているところでございます。今後容積率、建ぺい率、日影規制等の問題につきまして、用途地域内、用途地域の指定のない区域を含めまして、千葉県のご指導を受けながら協議、検討を進めてまいりたいと考えております。

次、大きな第5の改正自転車法についての第1点目、J Rも参加した自転車等駐車対策協議会の設置を進める考えはどうかとの御質問でございますが、自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律が昨年12月22日公布されましたが、まだ施行されておられません。今後示されます施行に関する通達等を参考として検討してまいりたいと考えております。

第2点目、放置自転車の撤去や処分の法的な権限の明確化が必要と思うがどうかとの御質問でございますが、第1点目でお答えしましたとおり、今後施行に関する通達等を参考に検討してまいりたいと考えております。

大きな第6点目、国民福祉税についての御質問でございますが、今回の国民福祉税につきましては、発表後直ちに撤回されたものであります。税制改革につきましては、世論の動向を踏まえまして、国政の場で大いに論議を尽くし、国民が納得のいく税体制を構築することを期待するものでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 老人保健福祉計画についてでありますけれども、寝たきりゼロが基本的な理念というか、方針、目標だという、これは当然のことだと思ふんですけれども、ホームヘルパーの派遣回数が週3回というのはニーズ調査の結果だ、こういうお話なんですけれども、私はちょっと納得できないんです。どういうことかといいますと、現在長期入院の方が非常に多いわけです。この長期入院の方が多いという問題について、先ほどのお話ですと、社会的入院等について、現在の医療では調査は不可能だ。不可能なんです。これで184人いる人が平成6年には86人になる。わかりもしないのにどうしてこんな半分になるということが出てくるんですか。これはいわゆる社会的入院という方がいることを前提にしているからこういう計画が出るんじゃないですか。ということは何を示すかということ、結局は今の在宅福祉の水準、これでは当てにならないんです。週1回とか週2回とかという水準じゃ当てにならないんです。本当に安心して在宅福祉に頼れるという水準になっていないんです。そういうものを前提に考えるから、やっぱりどうしてもこれは低い水準がニーズ調査で出てきても、ある意味ではやむを得ないんです。だけれども、現実にはこの184人もの人たちが長期入院をしている。この現実をどういうふうにお考えになりますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 6カ月以上の長期入院者が減るという、その理由はどうかということでございますけれども、1つの算式でとらえまして参考までに申し上げますと、現況の数、実ははっきり実数はつかめないというのが実態でございます、そういったことから、算出方法としてニーズ調査を参考にしまして、そのニーズ調査の出現率を参考にしまして、65歳以上の人数からとらえて案分をしまして、人数をとらえたわけでございます。そして、11年度の目標年度における人数、確かに現況と比較して相当減っております。これは国の指導によりまして、国の基準の出現率、それを参考に実は算出したわけでございます。こういった6カ月以上の入院者が減るということ、これは本来の姿としては望ましい姿というふうに考えておりますけれど

も、ほかの在宅寝たきり老人、こういった対策を含めてこれから検討してまいりたい。実はこの計画は平成8年度見直しをするわけです。その時期になりまして、その時点での現況はどうなのかということも参考にして今後見直ししていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） この今の長期入院の問題についてですけれども、これは実際にニーズ調査をして、そして、これは全部というわけじゃないですから、その割合で長期入院者の出現率を推定したから、大体现実に近い数字と一応みなすことができると思うんです。実際に国のこの出現率というのが、平成11年という出現率が0.6でしたか、その出現率でやると、実際には86人という数字になってしまう。ということは、現実の状況というのは、国の長期入院の出現率の基準から見た場合に、実際の推計値は倍いるという、そういうふうに理解していいですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 先ほどもお答えしましたとおり、実際の現時点のその6カ月以上入院者の実数というのは本当につかめないのが実態なんです。私もこの計画の中に参画をしまして検討を重ねてまいりました。そんな中でも確かに疑問を持ったわけでございますけれども、この6カ月以上入院、できれば内容を分析してみたいという考えもありました。例えば精神障害者、そういった人たちは簡単には退院できないという実態があらうかと思います。そういった人たちが何人ぐらい実際にいるかどうか、そういったこともいろんなデータから見てまいりましたけれども、精神障害者は三十二、三％、これは概算の率ですけれども、そういった状況もつかんでおります。これは確かな数字ではないんですけれども、推計としてそのぐらいいるだろう。そういった人たち以外は本来ならば一人でも多く退院するというのが望ましい姿だろうと思います。そんなことでいろいろ検討してまいりましたけれども、いずれにしても、先ほど申し上げましたとおり平成8年度に見直しを行いますので、その結果どうなるかわかりませんが、そういった作業を

今後進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 私はこの非常に長期入院が多いという事実、大体国の推計の倍近くいるということは深刻に受けとめなきゃいけないことで、実際お年寄りが、本当は在宅でやれるんだけれども、いろいろな事情で、結局は市のホームヘルパーを頼んでも、週2回ぐらいしか来ない。そういうところでは、とてもじゃないけれども——共稼ぎがふえるとか、また介護する人が高齢であるとかいう状況もありますから、勢いこれは入院ということになるわけです。実際に在宅サービスが伸びない理由について調査してみると、結局はそういう在宅サービスの水準が十分にその希望者の需要の内容に対応できないということで、供給側の事情が優先してしまっているということを指摘されているんです。されちゃっているわけです。ですから、なかなか在宅福祉が伸びない。そのことをまさにこれは示している数字だと思うんです。非常に在宅福祉がおくれているからこそ、みんな病院が最終的には——最後のとりでなんです。病院が最後は見ちゃうんです。こういうことを示しているのがこの数字だというふうに受けとめて、在宅福祉の問題については本当に真剣になって取り組んで、病院に行く前に在宅福祉で十分対応できるという市の水準を住民の前に示していける、これが大事だと思うんです。

そういう点から見ますと、ニーズ調査の結果算出したということで、ホームヘルパー54人、週3回という形で出しているのは、私は大変少ない、問題があると思うんです。全国で10万人のホームヘルパーをつくろうという計画です、国の基準は、65歳以上の人口、平成11年には2,100万、そのとき館山は1万4,341人ですか、計画の水準が。これは65歳以上の全国の10万人体制に見合う館山市の人数は何人かと計算すればすぐ出るわけです。そういう面で見ますと、67人ぐらいになります、私の計算では、54人という水準は2割少ないんです。8掛けなんです。全国水準から見て、ヘルパーの数が2割少ない、65歳以上の人口の割合として考えた場合に、この目標が。どうしてそういうことになるかというのは、今計算をしてきた経過から示されたよ

うに、週3回、これで住民から出ている要望がこれだからいいんだということなんです。全国的な水準はもっと高い水準をつくらうじゃないかというのかかわらず、市の姿勢が非常にそういう面から見ると後ろ向きだと思うんです。全国で10万人の体制をつくるということについて、ホームヘルパーの水準をつくるということについて、2割も少ないんだ。これで、全国水準より2割少ないヘルパーのこの状況で、福祉を重視している館山市ですと言えますか。福祉軽視の館山市だと言われても当然じゃないですか。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） ヘルパーの派遣週3回では少ないのではないかとこの御質問でございますけれども、この週3回はあくまでも要介護老人に対する平成11年度のいわゆる目標年度までの平均値でございます、中には4回、5回という回数で派遣されるケースも出てこようかと思えます。あくまでもこれは平均値をとらえた回数でございます、高齢者の身体の状態、家庭の状況等によって異なるわけでございまして、これからの運用に当たっては、こういった今までの実績を踏まえて、個々のニーズに合った派遣回数ということで対応してまいりたいということからの考えでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） その辺は、実際は全国平均からも2割少ない水準だ。これは標準的な派遣回数という――平均ですから。しかし、その対応に依拠しては週4回、5回派遣する、そういうことも十分その状況に依拠してあるんだ。でも、平均をすれば週3回。だから、1回、2回という場合もあるんでしょうけれども、そういうことです。それは実際に運用をやっていけば、これは週平均3回では足りないぞ、平均、標準が3回じゃ――4回にしなければ、5回にしなければという問題も出てくることもあるわけです。まだこれはわかんないです、やってみなければ。でも、ここで押さえておかなきゃいけないことは、館山市の水準は全国より2割も少ない低い水準で設定してしまったというこの事実なんです。そのことについてやはり真剣に受け

とめて、それを基準にして今後の運用を考えるんじゃなくて、これは少ない基準だということを前提にして運用の問題も考えてもらわなきゃいけない。2年後見直しをするという問題もあるんですけども、そういう姿勢というものを確認できますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この件につきましては、いま一つ説明を加えておきたいことが実はあるわけです。神田議員さんの最初の御質問——いわゆる寝たきりゼロ作戦の中に関係してまいりますけれども、現在寝たきり老人は165名、1.5%というとらえ方をしております。さらにこの数値は、平成11年度の目標年度はどうなるかということで算出した出現率は同じ1.5%です。これはもうちょっと低く見るべきじゃないかという議論がありますけれども、館山市といたしましては、平成11年度の目標年度に最大限の保健福祉サービスの推進を図りたいという考えから、同率に実はしたわけです。この数値を、寝たきりの出現率を低く抑えれば、ホームヘルパーの回数も当然少なくなるわけですが、これを最大限に実は見ている関係で、多少ゆとりがあるかなという考えが一面ございます。つけ加えて御説明申し上げます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 目標値の数値をどういうふうに設定するかというのは今後の行政の運営で、私は率直に言って54人というのも大変だと思っているんですよ、この数字自身が。だけれども、腰だめという言葉はだれか使いましたけれども、まさにそういう数字であって、本当はもっと伸びていいんだ。それは、ゴールドプランという言葉は嫌いですが、さっき言った最低限の水準から見ればかなり腰だめの数字だということで、今後の運用を考えていただけたらなと思います。

それで、財源問題ですけども、国から示されないからというんですけども、この6兆円というのはいわゆるこの老人保健福祉計画全体の事業規模ということで、計画自身で盛り込まれているわけです。これは65歳以上の老人人口の案分で、40億円ぐらいが館山市のあれに単純な計算ではなりますけ

れども、その規模で物事は考えられるんじゃないかなと思うんですけれども、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 6兆円の財源規模、これはあくまでもゴールドプランから想定した財源措置の考え方であろうかと思います。先ほど市長から答弁しましたとおり、これからこの老人保健福祉計画、県を通して国に上がっていくわけでございますけれども、それによって集計された結果がどの程度財源が必要か、この関係につきましてはこれからの国の作業になるかと思っています。そういった作業の結果、実際に財源を確保して、どのように各市町村の計画の中に反映するかということはこれからの問題でございまして、この6兆円についてどうのこうのという議論は私どもは今現在考えておりません。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） お金のことがなきゃ物事進まないです。だから、全国的な平均で見ると、6兆円が館山市で大体考えると40億円ぐらいの割り振りというか――単純な割り振りです、これ。だから、それぐらいの事業規模なら全国平均かな。でも、館山市の実際の事業計画が出てきたら、予算規模30億円程度だというんなら、これは全国平均よりもかなり値切られたな。逆にこれが50億とか60億規模になれば、かなりほかよりも館山市は手厚くされたのかなという、そういう物差しみたいな――やっぱりお金ですから、これはそういう点ではそういう面で私ども見ていきますから、そういうことでお考えをいただきたい。

次に、これは財源問題とも兼ね合いがあるんですけれども、私はこれはお金をつぎ込むと同時に、中長期的に見れば、この保健福祉事業が進むということは、医療の面では極めて少なくなる。トータルで見ると、中長期的に見ると、負担が少なくなるんです。そういう見方もできるわけです。逆に言えば、この事業を後回し後回しにすると、結局は老人医療費の増大という形でツケが回るという関係になろうかと思うんです。それだけに、この事業とい

うのは一刻も早く手をつけてどんどん進めていくという方が結局は財政運営的にも大いに効率的なことになるというふうに思うんです。

この中で訪問看護制度を発足させると言っているんです。これは26人の看護婦さんで382人、週1回訪問する。非常に寝たきりのお年寄りにとっては朗報だと思うんです。こういうことが本当に実施されるとなりますと、例えば老人病院に1カ月入院していると、平均的には約30万医療費がかかります。この老人訪問看護だと、私の資料では月3万円なんです。せいぜいそのくらいなんです、かかるお金が。だから、26人の看護婦さんを得てこういう事業をするということは、それ自身見ると大変な負担というふうに考えられますけれども、そのことによって行われる財政の効率化——お医者さんから見ればなかなか困った話なのかもしれませんが、しかしそういう医療という問題を総合的に見た場合には、極めて財政上は効率的な内容があるわけですから。試算してみますと、382人というのは、単純な計算ですけれども、月1億円節減になるんです、老人病院に入っていたとしたら。こんな大きな事業ですけれども、財政という問題を考えても、そういう内容として見る必要があるんじゃないか。特に、地域医療との兼ね合いをこの老人保健福祉計画は一体のものとして考えないといけないんで、どうもこれだけ見ていると読めないんです、その老人保健福祉計画だけを見ていると。地域医療計画との整合といいますか、一体的な把握という問題を見ないと、今の訪問看護事業、これもわかってこないんです。そういう点から、地域医療計画とこの関連をはっきりさせていくという作業が非常に重要じゃないかなと思うんですけれども、それからもう一点、今の訪問看護事業——私月3万円なんて自分で勝手に試算したものを言っていますけれども、市としてはどのぐらいの金額というふうに、医療費の負担ですね、見られているのか、お示しをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 今回のこの老人保健福祉計画と地域医療との整合性といいますか、そういった御質問がまず1点でございますけれども、今回のこの計画を策定する指針として、大きな目的といいますか、いかにこれ

からは保健、医療、福祉の連携を強化していくのか、そういった大きなねらいが実はあるわけでございますけれども、今回の計画の中では、ウエートとしては保健対策事業、そういった事業を幾つかとらえてございます。今後の地域医療計画、これにつきましては、今回策定をしました老人保健福祉計画との整合性という考え方から、今後見直しされていくんじゃないかというふうに実は考えているわけです。

それから、訪問看護の報酬といいますか、手当といいますか、その金額という御質問でございますけれども、今後配置との関係の中で検討していくべき問題だというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 今の金額ですけれども、これも具体的に示されているんです、金額の算定方法。老人訪問医療の場合、どういう基準で算定するか。1回行くと幾ら幾らと具体的に示されていますから、お答えいただきたいと思うんです。月4回行きますと幾らですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この手当につきましては、看護婦を雇う体制、いろいろな方法があらうかと思えます。そういったお願いする、いわゆる勤務する体制によっていろいろ変わってくるわけです。そんなことから、先ほど申し上げましたとおり、これからの配置の状況等を踏まえて検討していくということで先ほどお答えしたとおりでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） それはもう診療報酬のあれで費用負担の仕組みは決まっているんです、ちゃんと。1回、月4回訪問の場合、7,240円です。ですから、いろんなその他の使用料とか利用料を含めても、大体3万円は超えないだろうというぐらいです。本当です、それ。だから、老人医療の場合には、老人病院に入ると、月医療費約30万円はかかるんです、大ざっぱな話で。いろいろな治療内容にもよりますけれども。だから、これは大変なこと

なんです。こんなことされたら、お医者さんは病院の経営が成り立たないという問題を持っているんです。だから、この地域医療計画との関係をしっかりとつくらないと、こういうものは絵にかいたもちになっちゃうという要素を持っているんです。本当です、それ。3万円くらいになっちゃうんです。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 一応参考に伺っておきます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そこで、先ほどのお話で、今後8年に見直しをするということで、この計画の作成には一応懇談会をつくってやってきたわけですけれども、この懇談会、一応計画ができたから解散ですよということになるのではちょっとどうかなと思うんですが、改めて — この計画は財政計画だとか年次計画だとかどういう段取りでとかという一番基本的で重要な問題がまだ欠落しているわけですから、そういう中でこの実行を — 計画の進行について、住民参加でこれを管理していく、こういうような意味で、引き続き懇談会なり、あるいはどういうふうな名前と呼ぶか、そういう機構を設置していく、住民参加の機構をつくっていく、お医者さんとの関係も重要ですから、そういうお考えはございませんか。そういう中で、やっぱり開かれた中で論議していかないとなかなか難しいんじゃないかなと思うんですけれども。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 計画をつくった以上は、これをいかに推進していくか、これからの体制づくりが重要かと思います。そういったことから、今まで行政サイドで組織をつくって作成してまいりました作成委員会、これを母体として、今後名称はどうなりましょうか、そのメンバーで推進チームをつくっていくということで対応してまいりたい。さらには、先ほどもお話ししましたとおり、平成8年度に見直し作業がございますので、その時点では、やはりこの作成に当たって組織してまいりました懇談会 — いわゆる住民代表あるいは学識経験者、そういった関係者での構成で、その時点でまた

組織がつくられると思います。そういったことでフォローアップをしていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 水道負担金についてお尋ねいたします。

水道負担金の問題で今後検討していきたいということで、いつまでを時期は考えているのか。それと、南房総広域水道は現在のところトン当たりの出資金は幾らですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 開発負担金の関係の時期でございますが、現在――先ほど来バブルが崩壊してというお話が出ているわけなんです、こういって、宅地開発等が停滞傾向にある中で、この時期にはどうかということもございますので、その時期も含めて検討してまいりたい、こんなふうに考えております。

それから、出資金とトン当たりの関係でございますが、ちょっとそういう方向で算出してございません。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） トン当たりの出資金は、市町村出資金は28万円です。これはそういう基準で出しています。いかがですか。そういうふうに御存じないですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 出資金につきましては、総事業費の国庫補助基本額の3分の1が出資金でございまして、これを水量割で除したものが各市町村の出資金になっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 各市町村の基本水量をもとにして17市町村がそれぞれ割り振りをしているんですけれども、その割り振りに当たっての基本的なトン当たりというか、立米当たりの負担は28万になるはずですよ。計算して

みてください。

それで、千葉県は開発負担金が13万円、鋸南町は開発負担金がトン当たり100万円、かなりこの差があるんですけども、こういう中でどういう考え方でいくのかということで、なかなか難しい問題があるかと思うんですけども、私はこの出資金、基本水量として出された出資金の分は、これは本来——例えば、リゾートは4,000トン水が必要だということで、リゾートで出したわけです。これ11億です、そうやって計算しますと。リゾートのために館山市は市町村出資金で水を負担するのが11億円になります。これを一般の市財政で持つというのは大変なことです。だから、そういう点について、開発者にその負担を求めていこうじゃないかというのは道理あることじゃないかなと思うんです。そういうことで、ぜひ御検討をいただきたいなと思います。

マンションの建築規制ですが、いわゆる白地域、この問題は——時間ですね。じゃ、終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

#### 会議日程の変更

◎議長（福原 勤君） この際、会議日程についてお諮りいたします。

明9日の会議日程は本日に引き続き行政一般質問となっておりますが、本日終了いたしましたので、明9日は休会といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、明9日の会議日程は変更され、休会と決しました。

散 会 午後3時49分

◎議長（福原 勤君） 本日の会議はこれにて散会いたします。

なお、明9日は議案調査のため休会、次会は3月10日午前10時開会とし、

その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑の通告の締め切りは3月9日正午、平成6年度各会計予算に対する質疑通告の締め切りは3月10日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問